



獨度涅烏斯草木譜
初稿本

洋学文庫
文庫 8
F 4
8



始 廿五章 キリノ草 薺ノ菜 三花 ミセハヤク
竹 廿三章 ハヤスリ 廿五章 亀甲 紅巻草

初編 第四卷 中

独度涅烏斯草木譜

十一

初部 第五卷

共十四枚

四

第十一章 「テレピウム」一名「スイルウルト」

品類 「オラスコリデス」が説トコロノ「テレピウム」ハ唯

一種ナリ今世ノ本草家其外ニ二種ヲ説ク故ニ今爰

ニ三種ヲ挙ク

形状 「テレピウム」ノ第一種

其節圓シテ巨ク滑沢ニメ毛茸ナシ節アリテ恰モ膝

状ヲナス根際赤色ナリ葉厚ノ毛茸ナク肌層ノ色ノ

如シ粘滑液充ツ葉邊間々鋸齒アリ潤葉ツルホルセレイ

子ニ比スレハ大ナリ其他モ稍相似タリ二葉對生ノ

莖ヲ栴ノ生ス花繖状ヲ為シ黄色ニメ光沢ナシ根ハ
狭長ナル塊ヲナス長エ一ケレノ如ク漸々ニ尖テ
白色鬚根ヲナス

同茅二種

和名キリンソウ

漢名費菜

是レ通常ノスモールウルトルナリ其莖直ニ叢生シテ
圓ク滑沃節ナシ葉ハ厚ク肥大ニ潤シ葉面反セリ前
種ヨリ小ニメ互生ス花小ニメ赤色或ハ黄色又白色
ナルモアリ根白クメ肥大塊ヲナス○此草最ニ久シ
ク緑色ヲ保ツモノ也是故ニ其小莖ヲ盆中ニ泥土ヲ

塊ヲ挿ストキハ久ク綠色ヲ保ツ又入テレニ水ヲ澆
クトキハ甚長大ニ至ル

全茅三種

和名ニセバヤソウ

漢名紅花景天

此物前ノ茅二種ヨリハ小ニメ低シ何者莖細ク軟ニ
メ多ハ土ニ偃フ葉モ亦小ニメ圓ク肥厚青色ニメ稍綠色
ヲ帯フ本伶竹トメ葉ハ莖末ニ密着互生ス花ハ莖末
ニ繖状ヲナシテ簇着ス色青メ微紫ヲ帯フ光沢ナシ
根ハ鬚根ニメ塊ナシ

出處 此種類ハ好テ陰地石地或ハ古壁道傍ニ生ス又

「ラリバシウス」曰ク葡萄園及ヒ其他ノ園ニモアリト
第一種ハ伊斯把尼亞及ヒ荷斯天祿以吉其他ノ近國
ニ生ス又熱爾瑪尼亞ニ於テ見タルモノアリ何者列
印國ノ石地葡萄園ノ傍ニ生ス伊斯把尼亞ニハ他ノ
種類ハナシ

第二種ハ熱爾瑪尼亞葉謁堽爾蘭杜松蘭察別謁莫斯
等ノ諸國葡萄園古壁泥土稠土ノ地ノ道傍樹籬ノ辺
ニ甚タ多シ又盆中ニ栽ユ

第三種ハ多クコレヲ見ルヲナシ但葉謁堽爾蘭土及
ヒ其他ノ園中ニテハ常ニコレヲ見ル

時 其草ノ花ハ大抵八月ニ開ク又早ク開クモノアリ

異 第一種ハ厄勒奇亞ニ「テレピオン」又「アローソ
アギリラント云羅甸ニ「テレピウム」又「セムペルヒエ
トムシリスステレ」然「イルレセブラ」云今前章ニ説
トコロノ熱及ヒ辛癖ノ「イルレセブラ」トハ大ニ異ナ
リ又厄勒奇亞ニ「アンドラカ子」羅甸ニ「ボルカ子
カ子シリスステリスト云又別ニ一種「ボルカ子
シリスステリス」野生「ボルセライ子ト云フ家生
又園生「ボルセライ子」ニ似テ小ナリ
第二種ハ是亦「テレピウム」ノ一種ナリ藥局ニテ

五ラト名ケ他ノ「カラス」五ラト別ニカ為ニ「カラス」
ラハ「バリ」ア「カラス」五ラトヨル「カラス」ハ我小
「ドン」ドル「バル」ド前ノ第ノ章ニ論セリ「彼」亦「ハ」バリ
「ア」ト名ク「熱」名「瑪」屋「亞」ニ「ウ」ンド「カ」ラ「ウ」ト「コ」ウ「ペ」ニ「カ」
「ラ」ウ「ト」ホ「ル」ツ「ワ」ン「グ」ホ「ツ」ウ「イ」ント云「意」太「里」亞「ニ」ハ
「バ」グ「ラ」ス「サ」ト云「佛」即「桑」ニ「ヨ」ウ「バ」ル「ベ」デ「ス」ヒ「グ」子「ス」
「ヘ」エ「ス」ペ「ス」セ「業」謁「堉」尔「蘭」土「ニ」ス「メ」ール「ウ」ル「テ」ル
又「ヘ」ー「メ」ル「ス」レ「ウ」テ「ル」ト云「諸」厄「利」亞「ニ」テ「ル」ペ「イ」子
ト云フ

第三種ハ人コレヲ知ル者稀ナリ故ニ其名ヲ得ル

或人コレヲ「テレ」ピウムセムペルヒウムト名ク
是レ長生不死^{アルテイトレーニデ}「テレ」ピウムノ義ナリ何則「テレ」ピウム
ノ種類ハ冬ニ至レハ根ノミアリテ茎ハ枯死ス唯此
第三種ハ冬月ノ寒氣ニ堪ヘ茎葉枯レサルカ故ナリ
性効 凡テ「テレ」ピウムノ種類ハ性寒ニシテ其質精微
ニ燥ノ功アリ
主治 地和思谷里^{デス}述斯曰ク此物面部及手ノ皮膚ニ灸
スル所ノ白癩風^{ウツク}及ヒ雀斑^{フク}ヲ治ス哈列^ハ柁^ス斯ノ^ス悦ニハ
黑白癩風及雀斑^{ヲ除ク}ニ醋ニ調テ其上ニ貼ス是レ其性
淨除蕩滌ノ功アルガ故ナリ是故ニ其味ニ差フト雖

任彼ハ其性熱ナリト云ヘリ味ニ依ル片ハ第一種ニ
種共ニ性寒ナルモノナリ何則我此書ノ第一卷ニ於
テ淨除ノ功ハ温ナル物ノミナラズ寒ナル物ニ於テ
モ亦能氣氣精微ナレハ燥ノ功アルヲ以テ領解ス
ヘシ

附考

樂久那及ニ其他ノ本草家「テレピウム」ヲ「スモールウ
ル」ルノ種類トナサズ始ハ「ケルセ」第十九章「タラ
ス」同二十一章ノ種類トセリ又「コクレマリア」第二章
山命菜ノ類トセリ然レ暖國ニ於テハコレヲ知ル

ナシ而シテ地和思谷里送斯ノ真ノ「テレピウム」トス當
リ難シ 將我コレヲ「ローベルコロイ

ト第一卷ノ條ニ於テ辨スベシ○葛樂的發思ノ「テ

レピラン」ハ地和思谷里送斯ノ「スコルポニン」コロイ

ト第三卷ノ條ニ於テ辨スベシ○葛樂的發思ノ「テ

レピラン」ハ地和思谷里送斯ノ「スコルポニン」コロイ

ト第一卷ノ條ニ於テ辨スベシ○葛樂的發思ノ「テ

レピラン」ハ地和思谷里送斯ノ「スコルポニン」コロイ

ト第一卷ノ條ニ於テ辨スベシ○葛樂的發思ノ「テ

レピラン」ハ地和思谷里送斯ノ「スコルポニン」コロイ

ト第一卷ノ條ニ於テ辨スベシ○葛樂的發思ノ「テ

レピラン」ハ地和思谷里送斯ノ「スコルポニン」コロイ

ト第一卷ノ條ニ於テ辨スベシ○葛樂的發思ノ「テ

ナリ羅甸ニ「テレロウム」イウス一名「カラス」ニラマ
ヨルイスバニカト云即チ伊斯把左亞ヨリ来ル尋常
ノ「スノール」ウルトルヨリハ大サ四倍ナリ紫裼堊也
蘭土ノ園中ニ培養ス花白色ナリ或ハ紅花ニシテ
長ト短トアリ

第二種ハ紫裼堊也蘭土ニ「ウシ」ゲン「コロイ」ドト名ク
「松節」ニシコトリン又「タル」ピン「レ」プリセ「ヒ」云フ
其花「ハイペリ」コン「切」中「乙」ノ形ニ似タリ意「太里亞」ニ
「ハ」ガ「ラ」ス「サ」又「ハ」ハ「イン」ヘリ「サ」氏「ハ」バリ「ア」ニ名ク
「ド」ド「子」ウ「ス」
「和」
「花」
「涅」
「烏」
「斯」
ノ「祝」
ト「コ」
ロ「ノ」
「第」
三「種」
ハ「羅」
別「兒」
「コ」
レ「ラ」
小

「ル」
「ン」
ト「名」
ク「羅」
甸「ニ」
「テ」
レ「ロ」
ウ「ム」
ミ「モ」
ス「セ」
ム「ペ」
ル
「コ」
レ「ン」
ス「ト」
云「其」
「緋」
「圓」
ノ「紅」
「花」
ヲ「閑」
ク「羅」
別「兒」
曰「ク」
鬚「根」
ヨリ「莖」
ヲ「生」
ス「ル」
「ワ」
「リ」
「テ」
ル「ポ」
ン「ゲ」
ン
「第」
二「十」
卷
ヨリ
「十」
五「章」

尋常及ヒ伊斯把左亞ノ「スノール」ウルトルハ「噯」氣及
ヒ「疾」症ニ「苦」シ「メ」ラルニ「用」テ「コ」ー「レ」ニ「松」類ト「同」等ナ

「ロ」
「イ」
「バ」
「ル」
ノ「真」
ノ「テ」
レ「ロ」
ウ「ム」
ハ「地」
和「思」
谷「里」
迭「斯」
ノ「真」
ノ「テ」
レ「ロ」
ウ「ム」
ニ「克」
ツ「其」
草「ノ」
大「サ」
形「状」
共「ニ」
尋「常」
ス「ノ」
ト

ルウルトト同シ然レ得^テ和^ラ樽^ヲ樂^ス思^ス絀^ス斯ノ説ニハ葉
青色ニノ驚白色ナリト云ヘリ業^ノ謁^ル堊^ノ蘭^土ノ園中
ニハ間^ナレアリコレ^ニ吉留識^鳥斯ノ説トコロノ^レテレ
コウムニノ^ド独^チ度^ニ涅^ス鳥^ノ斯ノ真ノ^レテレピウムナルコト
明^ケシコレ^ヲテレ^コウムセクス左ムギ^ヲスエリ^テ
スホル^テト名ク何則其^ニ差^ハ地^ニ横^ハリ^テホ^ルセ^レイ
子^ノ馬^ノ苗^ノ如^シ葉モ相似^テ青色ニ^箱暗^ク緑^ヲ帯^フ花モ^ス
ノールウルトルノ如ク多^ク櫛^ノ簇^シテ紫色^ヲ帯^フ根^ハ甚^ク
鬚^多シ此草氣ノ酷^ク烈^ニ堪^エ故^ニ冬^ニ夏^トモ^ニ緑^色ニ
シ^テ受^スベシコレ^ヲセ^バア^バン^シト名^ツク根ノ

奇^レジアラ^ジクス^ニ第^十一^章ニ似^タリ尚^後ニ論^スヘ

歌^ハ兒^蘭的^乙莫^身樂^督ノ真^ノテレ^コウムハ^那百^兒斯^ノ
ヨリ吉^留識^鳥斯ニ送^リシイ^{アリ}コレ^ヲテレ^コウム
セ^バア^バン^シヘレ^ギキ^シムイ^ムペ^ラテ^ト名^ツク根
ヨリ多ク小^枝ヲ分^テ地^ニ驚^行ス高^サ一^尺許^ノ外^内
ニ過^キス葉^互生^ス他^ノ種^類ヨリ小^ナリ又^薄ク水^気
ナク且^軟ナリ緑^色ニ^メ微^褐ヲ帯^フ茎^梢ニ多^ク小^花
ヲ着^ス白色^五瓣^櫛簇^ス後^実ヲ結^フ稜^{アリ}内^ニ驚^白
色^ノ小^子充^ツ根^ノ巨^ク小^指ノ如^ク白色^柔軟^細根^ヲ

分チ宿根ニメ年毎ニ嫩苗ヲ生ス
「セパア」ノ種類ハ「テレロウ」ヨリハ「ボルセレイ」子馬
莧ニ甚似タリ

主治「ウ」ンデンコロイト一名「ス」ノールウルトルハ其
功用主治共ニ「ド」ンドルバルドノ如シ○「ス」ノール
ウルトル葉ハ白屑ヲ治ス故ニ独度涅烏斯モ亦白屑
ニコレヲ貼スルイ七時本朝ノ三時半ニメ後大麥粉ヲ摩擦シ
ス○雀斑ニハ醋ニ調シ患処ヲ湯ノ処ニテ摩擦シ
テコレヲ揉ク但シ乾ク片ハ自ラ淨掃ス○「ス」ノール
ウルトル「ウ」ンデンコロイト一名「テレロウ」ト名

凡ハ不潔ノ金瘡損傷諸瘍ヲ清潔ニシ燥ニ癒スノ隱
功アルヲ以テ也且ツ其性寒燥中等ナルヲ以テ諸漏
瘡ヲ治シ又膽汁様ノ液ヨリ発スルトコロノ諸病ヲ
治ス

他用

緩和ス○此物自然汁及ヒ煎汁ハ金瘡損傷ヲ治スル
ニ殊ニ驗マリ能ク血ヲ止メ又内臓損傷潰瘍小瘡ヲ

第十二章「ナールコロイト」一名「コテイレド」

品類 地^{ゴラス}和思谷^{コリ}里迭斯^{デス}ハ二種ヲ挙タリ故ニ我亦爰ニ

二種ヲ論セントス而メ別ニ一種ヲ加フ是レ或人ノ

説ニ「セムペルヒエーム」^{第五卷}ノ種類ニ收ム

形状 第一種

葉楕圓ニノ厚ク滑澤ナリ水気多ク稍齒刺アリテ稜
ナシ葉ノ中心ニ莖ヲ着ス中凹ニメ小鋒ノ状ニ似タ
リ綠色或ハ地ニ依ラ紫色^{ヲ帯ル}者アリ叢中葉間ヨリ一
莖^立立シ高サ一咫ニ過キズ小枝ヲ分出シ小白花ヲ

着ス又紫色ニメ光沢ナキモアリ根ハ白色ニメ塊ヲ
ナシ^{「アイユイ」}ノ小球ノ如シ下方鬚根ヲ附着ス

第二種

其形状前種ト同シカラズ^{「クレン」}小ドンドル^{「ド」}パール^{「ト」}ニ似
タリ葉厚ク肥水気アリテ楕圓ニメ小舌ノ如ク齊列
ニ圓ク相簇ル^{「ド」}ドンドル^{「バ」}パール^{「ド」}ノ葉ニ似タリ中
心ヨリ一莖直立メ白花ヲ着ス根ハ鬚ナリ

第三種

今爰ニ第三種トスルハ法列力^{「カ」}勿思^{「ス」}郭兒^{「ス」}述斯^{「ス」}ノ「ゲケ
ルテルトセムペルヒエーム」一名「アールイッソーンセル

ラ五ムト各クル者ナリ其葉肥厚ニメ水気多ク細小
ニメ圓形ニ生スルア眼目ノ状ニ似タリ大トンドル
パールド前ノ八章又前ノ第二種ニ似タリ然レ甚タ小ナ
リ葉邊ニ細鋸齒アリ中心ヨリ一莖ヲ抽テ柔軟ニメ
直立ス高サ一咫許莖頂小花ヲ着ス葉ナキモノ、如
シ全ク白色ニメ斑点ナシ或ハ赤キ斑点アルモノア
リ根ハ細メ地上固着ス

出處 第一種ハ好テ古壁及ヒ巖石ノ間ニ生ス意太里
亞ニ多シ殊ニ彼獨忒斯葛那ノ地ニ最ニ多シ又布祿念
線アリ諸厄利亞ニモ亦生ス意太里亞ノ産ハ種類

多シ○第二種ハ山中石間ニ生ス荷斯天祿以吉及ヒ
意太里亞ニテ稀ニコレヲ見ル○第三種ハ海巖ノ高
処苔アル水気アル処ニ生ス

時候 第一種ハ冬月常ニ綠色ニメ夏初花アリテ細子
ヲ結フ後苗枯ル根ハ止ル○第二種三種ハ一種ト
同シ

異稱 第一種ハ業謁瑤尔蘭土ニ「ナーヘルコロイド」ト
云意太里亞ニ「コーペルト」トテ「蓋ペルトイヘレ」ラムビ
リコジヘ子レト云松郎桑ニ「エスキールレスト」ト云伊
斯托尼亞ニ「カパデルラ」スキデテ「スト」ト云是其葉ノ状

小鉢ニ似タルカ故ナリ厄勒存亞及ヒ羅甸ニテハ葉ノ形^刺脗ニ似タルヲ以テ名ク^故羅甸ニ「ユムビリキスヘ子リス」又「アセタビシムト云厄勒存亞ニ「コテイレド」^シド云或ハ羅甸ニ「ヘルバコクセンギキムト名ツク」^ヤ耶郭彌斯蔓カ勿斯ハ「スカラムカリ」又「スカテル」^トト名ク又異称多シ^{厄勒存亞}羅甸ニ「セボスアフロギテスト」云フコレヲ羅甸ニテハ「ホルラスヘ子リス」ト云業^思謁^ト堉尔蘭杜ニ「ヘリスホフ」ト云義ナリ又「ゲソムハロス」ト云フコレヲ羅甸ニテ「テルレ」^地ヘムビリキスト云業謁^將堉尔蘭杜ニ「ナール」^地ヘルデ^地ル^地ア^地ールドト云義ナリ又

「スギキス」^ト「ステルゲトロントモ云フ」

第二種ハ羅甸ニ「コテイレドンアルテラ」ト名ク厄勒

齊亞ニ「セイムバルリラン」ト云

第三種ハ「ナールコロイド」ノ小ナル者ナリ或又是

ラ「セムベル」^葉ヒユ^葉ムノ一種トシテ羅甸ニ「セラムセ

ルララムト名ツク

性効第一種ハ性滋潤ニメ微寒少ク收斂ノ性アリト

雖^然毛^軟著^ナラス^ハ列^レ拙^ス石^ノ説^ニハ^ハ清^涼ニ^シ駢^ト

逐^シノ功^{アリ}ト

第二種三種共ニ「ドンデルバール」トノ種類ニ同シ

主治 第一種ハ嫩衝ノ腫瘍及ヒ火瘤（トリス）ニ貼メ初ラケ治スルノ甚速ナリ○胃ノ嫩熱甚シキ者ヲ清涼ニス尤功アリ○葉根共ニ嚼ミ食スルハ腎膀胱ノ石ヲ碎キ小便ヲ利ス

第二種三種共ニ「ドンボルバルド」ノ効ニ同シ

附考

「ナールヘルコロイド」ノ第一種ハ碩學ノ葛祿留斯吉留徹烏斯ノ書第四卷四十二章ニ論スル所ヲ今好事家ノ為ニ明弁シテ茲ニ附録ス即チ其書ニ曰ク此草ノ葉ノ中心（附設）ニ出シテ時ニ似タリ其葉背ノ中心ニ在ラ

著メ根ニ附着ス軟ニメ水液満ツ其葉ノ叢中ヨリ一茎ヲ抽ツ細ノ内空甚堅勁ナラズ小葉ヲ着スルノ稀疎ナリ形圓ノ小本葉ヨリハ差長メ末少ク濶シ厚メ水気満ツ皺アリテ三裂ス茎末枝ヲ分チ小花ヲ着ス其狀狹長ニメ内空下垂メ鈴鐸ノ如シ綠色ニメ後白色ヲ帶フ花後小莢ヲ結ヒ黧白色ノ細子満ツ熟スレハ自ラ落ツ其地ニ應スル片ハ甚夕繁茂ス根ハ塊ヲナシテ葱（アライネン）及ヒ蒜（ロウキル）根ノ如シ或ハ紐ノ如ク或ヲレキス

第七卷 根ノ如ク或ハ圓形ニメ冬（オコ）「アコ」ニ云ム根ニ似（オコ）三十一章 根ノ如ク或ハ圓形ニメ冬（オコ）「アコ」ニ云ム根ニ似（オコ）タリ球ヲ分チテコレヲ植ユベシ○斯（ス）把（バ）及（ギ）左（シ）印（シ）及（シ）ヒ

波爾杜尾命ニハ自生ス○厄勒齊亞ニ「セイタリラニ
又^又セイムバリラニト云松節桑ニ「ムブリル。デ。ヘ。ミ
スト云撒刺滿加ニ「ハシルロスト名フ其葉ノ形ニ隨
テ名ツク○吉留識烏斯ノ説トコロノ「ナリヘルコロ
イヅノ別種ハ^ド獨度涅烏斯ノ^ウ第二種ト一般ナリ故ニ
爰ニ悉シク論セス○其第二種ト稱スル者ハ花第一
種ノ「ナリヘルコロイヅヨリハ大ニメ白色六瓣六枝
ノ莢ヲ結ヒ細子満ツ

第一

此ニ類スル別種ノ諸草ヲ爰ニ記ス此物第一種ヨリ

小ニメ葉モ亦多ク鋸齒アリ

第二 第二種「ナリヘルコロイヅノ別種

是レ^キ吉留^ウ識^ウ烏斯ノ^ウ所^ウ謂^ウコ^ウテ^ウイ^ウレ^ウド^ウン^ウアル^ウテ^ウラ^ウテ^ウル
テ^ウア^ウト^ウ名^ウル^ウモ^ウノ^ウ也^ウ其^ウ葉^ウ狭^ウク^ウメ^ウ級^ウナ^ウク^ウ尖^ウアリ^ウテ^ウ毛^ウ茸^ウ
多ク^ウ回^ウク^ウ生^ウスル^ウ「ド^ウン^ウドル^ウバ^ウール^ウド^ウノ^ウ種^ウ類^ウノ^ウ如^ウシ
莖ニ^ウ小^ウ葉^ウヲ^ウ着^ウス^ウ紫^ウ色^ウナ^ウリ^ウ別^ウニ^ウ小^ウ莖^ウヲ^ウ抽^ウテ^ウ枝^ウヲ^ウ分^ウテ
花^ウアリ^ウ其^ウ形^ウ狭^ウ長^ウニ^ウメ^ウ尖^ウリ^ウ大^ウ抵^ウ十^ウ二^ウ許^ウニ^ウメ^ウ星^ウ形^ウヲ^ウナ
ス^ウ赤^ウ色^ウニ^ウメ^ウ紫^ウヲ^ウ帶^ウ不^ウ後^ウ十^ウ二^ウ莢^ウ織^ウ状^ウヲ^ウナ^ウシ^ウテ^ウ花^ウノ^ウ中
心^ウニ^ウ附^ウ着^ウ玉^ウ二十^ウ四^ウノ^ウ花^ウ莢^ウヲ^ウ圍^ウ繞^ウス^ウ莢^ウ中^ウ細^ウ子^ウヲ^ウ着^ウス
人^ウ目^ウニ^ウテ^ウ見^ウ難^ウシ

第三

第二種ノ「ナ」ヘルコロイド花斑点アル者

此草ハ独度涅烏斯ノ説トコロニメ吉留識鳥斯ノコ

テイレドングアルテラ。名ルタシヘ。高キアリト名クル

モノ也尚明ニコレヲ論セン此物野生ノ者ハ六七月

ニ花アリ圓圓ノ者ハ五月ニ花アリ子ハ七月ニ熟ス

又早キモアリ葉長クハ小舌ノ如ク叢生ノ一処ニ相

簇ル肥厚ニメ尖リ葉邊皺アリテ白色ナリ味酸ニメ

微漚叢中茎ヲ抽テ高サ一尺五寸許茎梢毛茸アリテ

短葉乱着ス茎梢ノ葉間小茎ヲ分チ二三花ヲ着ス五

瓣白色瓣中血色ノ斑点アリ花底光アルトナキトア

リ十莖ヲ圍繞ス後小莖ヲ結フ細小黒子アリ根ハ懸

白色ニメ細ク鬚根アリ其周圍ニ多ノ嫩根ヲ生シ大

「ドンドルバールド」ノ如シ

第四

又一種吉留識鳥斯ノ「コ」テイレドングアルテラ。キ

ト名クル者アリ其狀前ノ草ト相同シ然レモ柔軟ニ

メ狭長齒刺皺ヤク皺白色毛茸多シ或ハ繭紬色茎短

メ巨ク多ノ小葉ヲ着ス葉茎上下共ニ毛茸アリ花ハ

他ノ種類ト異ナルトナシト雖レ茎ヲ抽ルトナシ○

大「ド」ドヒバールドハ地和思答里迭斯ノ真ノ「コ」テ

イレド^ンニ第二種ナルト明ナリ尚此ノ二草ハ其性
効主治モ亦他ノ種類ト相似タルト吉留^{キリウ}儼^{レン}鳥斯ノ説
トコロノ如シ

小山^{ケレンベク}ナ^ルヘルコロイド^ハ羅別兒ノ説トコロニシテ
乃チ^ド獨度涅烏斯ノ第二種ノナ^ルヘルコロイドト大

ニ同シ羅甸ニ是ヲコテイレド^ンニエスモンタ^ニ台
セ^レジホリヲト云是レド^ンドルバ^{ール}ト^ノ一種ナリ

羅別兒^コレラ^依ト加得ノヲノブレ^左ニ當タリ又
羅別兒ノ説ニ分セ業福^ル爾^蘭杜ノ葦園ニ能見ル所
ニノ別種ノモノナリ葉闊ノ花繖状ヲ為シ白色變ス

ベシ

獨度涅烏斯ノナ^ルヘルコロイド^ノ第三種一名鋸齒^{ダケルフデ}
ド^ンドルバ^{ール}ト^ノ圖ハ先ニ羅別兒ノド^ンドルバ

ールド^ノ最小ノ種類ニ充テ、乃チセ^レ台^ニニ台
テ^ルテ^ウムト名ルモノ也故ニ其圖ニ因ラズシテ説

ヲ以テ考フベシ是其説ニ於テ詳ニ論^ズタレバナリ
○ナ^ルヘルコロイド^ノ第二種ハ「セ^レムバ^リラ^{ント}

名ツクセ^レムバ^リラ^{ント} 附録千五トハ別種ナリ
主治第一〇水腫ニ^葉ニ和^メ服ス〇^カ輝裂及^テ此ノ如
キノ諸瘍瘰^癧及^テ熱ヨリ^テ瘡スル者ニ此草ノ^煎然汁ヲ

其テ甚ク甚ナリ○肺肝胃腸子宮ノ諸病ニ此葉ノ莖
露ヲ用テ甚ク功アリ或ハ熱^{ヨリ}申^ルテ^ル赤痢ニ由
テ諸腸ノ敗壞シテ其痛忍フベカラサル者ニ服サレ
メテ大ニ功アリ又根ヲ酒煎シテ用エ○諸瘍及ヒ^キ腺
腫其他頸^ノ諸腫全瘡出血等ニ此草膏ト為メ用エ
第二 第三○兩種共ニ「ドンドルバルド」^ト如シ然
レ未タ其功ヲ詳ニセズ

第十三章

和名ウツラクサ

漢名石胡荽

呂類

前ニ論スル「コテイ」レド^シ一名「ナール」コロイ

トノ外ニ又別種ノ「ナール」コロイト^レアリ是ヲ「ワー
テル」ナール「コロイ」ト云フ

形状

此草莖柔軟ニメ細ク地ニ鋪滿シテ悉ク鬚根ヲ

生ク葉田ノ扁ナル莖ノ如ク葉心由莖ヲ着ス第一種
「ナール」コロイト^レノ如ク雖モ葉甚薄シテ小ク且ツ

暗緑色ナリ葉下ニ隱ラ小白花ヲ開ク根ハ水鬚ノ如ク

出處

池沼及ヒ下濕ノ地ニ生ス冬月ハ水中ニ多有之

時候 和蘭ニ於テハ七月ニ花アリ

異稱 葉謁堉 和蘭杜ノ葉局ニテハ羅甸名ニテ「ユムビ
リモスヘ子リス」ト云然レ「コテイレド」ンバ
リヌスアリ
「スト呼ラ佳トス是レ「ブール」池マクキ又水北「
「ロイド」ノ義ナリ

性効 性温味微辛ニノ稍熱ナリ是レ其形状ノ長ナラ
ス性効ニ於テモ真「ナ」ヘルコロイドトハ大ニ異也
主治 此物謠ラ真「ナ」ヘルコロイドニ充テ用ルト勿
レ宜ク其気味ニ由テ辨スベシ故ニ今葉局ノ人モ更
ラ「用」ズ若シ「スワル」ン「ポペリ」ル第三十卷膏
「十四」章

劑及ヒ此類ノ 諸膏ニ製スレハ葉カラ減シ其性ヲ推ス
附考 「カルリト」
「十五」章
「石長」生又同卷「十一」章
「鉄脚風尾草」

此草絶テ熱國ニ生スルヲ見ス但北方諸國ニノミ
コレアリ○羅別兒ハ布力尼勿斯ノ「カルリト」ナ
ルカト疑ヘリ既ニ彼書中ニ此草ヲ以テ嚏葉トナス
「フ」云ヘリ其葉「リン」セ十七卷ナリ
最モ細小ナル「ヒ」ス二十卷ケニ九章ノ燈草ノ如シ根モ
亦甚ク細纖ナリ陰地ニ生ス味熱ナリト是レ「ワ
「ラ」ル「ナ」ヘルコロイドニ稍相似タリト雖モ然レ
全ク真トナシ難シ是ラ羅別兒ハ「ア」名ヲカコテイレ

ドンアセリスセプテンネリラナリウムト名ク諸厄
利亞^一「ワ^一テ^一ルペン子イウ^一ルテト云フ

「ゼ^一ナ^一ヘ^一ルコロイド^一是^一レ^一羅^一別^一児^一ノ^一統^一ト^一コロニメ

濯^一甸^一ニ^一「^一ア^一ン^一ド^一ロ^一サ^一セ^一ス^一又^一「^一コ^一テ^一イ^一レ^一ド^一ニ^一ホ^一リ^一ラ^一サ^一ニ

リ^一ナ^一ヘ^一ル^一バ^一「^一凡^一云^一地^一和^一思^一谷^一里^一迭^一斯^一ノ^一「^一子^一イ^一ム^一ハ^一「^一第^一二^一

五^一章^一コ^一レ^一ン^一ゲ^一洋^一蓮^一ニ^一相^一似^一タ^一リ^一何^一者^一此^一草^一水^一中^一ニ^一生^一ス

甚^一タ^一愛^一ス^一ベ^一キ^一小^一草^一ニ^一メ^一小^一ナル^一螺^一蛤^一ノ^一背^一上^一ス^一ジ^一タ^一ケ

タル^一空^一罽^一泥^一土^一ノ^一附^一着^一ス^一ル^一処^一ニ^一生^一ス^一莖^一細^一小^一ニ^一メ^一滑^一沢

ナ^一リ^一直^一立^一高^一ク^一ニ^一寸^一許^一各^一圖^一中^一「^一シ^一キ^一ル^一ゲ^一ケ^一ニ^一ラ^一掃^一フ^一マ

、^一四^一ニ^一メ^一胸^一ノ^一如^一シ^一故^一ニ^一蒙^一毛^一身^一尔^一力^一意^一尔^一斯^一ノ^一野^一者^一ハ

「^一ユ^一ム^一ビ^一リ^一キ^一ス^一マ^一リ^一ミ^一ト^一稱^一ス^一即^一チ^一ゼ^一「^一ナ^一「^一此^一ノ

義^一ナ^一リ^一此^一草^一常^一ニ^一未^一掘^一羅^一涅^一及^一「^一樂^一得^一斯^一ノ^一湖^一水^一ノ^一辺^一ニ

住^一ム^一ト^一コ^一ロ^一ノ^一漁^一人^一能^一ク^一知^一レ^一リ^一又^一拂^一弄^一質^一古^一那^一按^一ノ^一辺

潮^一水^一ノ^一往^一來^一ニ^一由^一テ^一流^一出^一ス^一ル^一「^一甚^一タ^一多^一シ^一何^一者^一此^一草^一水

底^一空^一罽^一ノ^一處^一ニ^一生^一ス^一初^一ハ^一甚^一タ^一汚^一タル^一灰^一色^一ナ^一リ^一後^一水^一中

ヲ^一リ^一汀^一ニ^一取^一出^一ス^一中^一ハ^一白^一色^一ニ^一變^一シ^一海^一螺^一類^一及^一ヒ^一「^一コ^一ラ^一「

ル^一リ^一「^一子^一ニ^一コ^一ロ^一イ^一ド^一第^一十^一五^一卷^一ニ^一十^一章^一〇^一ツ^一ノ^一ニ^一タ^一ニ^一ア^一ラ^一ス

ニ^一似^一タ^一リ^一味^一鹹^一ニ^一メ^一苦^一シ^一「^一子^一ハ^一葉^一中^一ニ^一包^一裏^一ス^一是^一レ^一羅^一別

児^一ノ^一研^一究^一ス^一ル^一所^一ナ^一リ^一又^一葛^一思^一亮^一児^一述^一蘭^一的^一ノ^一書^一ニ^一意^一太

里^一亞^一ノ^一國^一中^一悉^一比^一多^一苛^一於^一悉^一亞^一ノ^一海^一濱^一ニ^一於^一テ^一其^一子^一ノ^一葉

ステキチ

間ニ生スルヲ見タリト云ヘリ此草別兒陸屋勿斯ノ

「アンドロサーセトハ異ナリ是レゼードロイヘ」卷ニ

十三章又「王ヘダラ」同卷ニ十二ノ種類ナリ

「主治」ワールナルナールコロイドノ功ヲ説モノアラ

ス無學ノ葯局ニ於テ真ノ「ナール」コロイドニ代用

ニ用ルハ大ナル益ナリ〇然レ若シ布力屋勿斯ノ「カ

ルリト」セニ充ラハ上ニ説トコロノ如ク噴霧ニナ

シテ佳ナルベシ

「アンドロサーセ」主治羅別兒ノ「アンドロサーセ」ハ独

度涅烏斯ノ「ワールナルナール」コロイドトハ大ニ異

ナリ〇此物能小水ヲ利シ關節ニ固著スル所ノ「眼

リ」ンヲ消化シ惡物ヲ引出シテ下劑ヲ以テ之ヲ下ス

〇大便閉ニ此全草ヲ用ユル「猶羅別兒ノ証スル如

シ其功ヲ考ルルハ過燥ノ力多シ〇地和思谷

里達斯及ヒ哈列釋斯ノ統ニ水腫ニ此草ニ莖ヲ酒ニ

テ服スレハ小水ヨリ多ク通利ス或ハ此子水ニ煮テ

服ス〇又痛風ニ貼シテ大ニ功アリ又末トナシ酒醋

及ヒ水ニ煮テ服スレハ殊ニ小水ヲ通利ス

第十四章 「ヒココロイト」一名「ソヒア」

和名クジラクサ

碎米齋一種

形状 此草茎固シテ堅ク高一尺五寸許其茎潤リテ薄ク狭ク細カニ剪截セル如キ葉ヲ生ス狭葉アルセ子ニ稍相似テ薄ク又胡荽ノ最モ薄キ葉ニ甚似テ白色ヲ帶フ枝梢小花ヲ排列ス花黄色光澤ナシ花後薄ク狭長ナル小莢ヲ結ビ赤色ノ細子アリ根ハ堅ク木ノ如キノ白色鬚多シテ土中ニ深ク入ル

出处 此草古園樹叢沙石ノ地ニ生ス或ハ荒瘠石耕ノ地ニ生ス此種一度時レハ年々ニ生スルモノナリ

時候 六月ヨリ秋ニ至テ漸ニ花ヲ開ク従テ熟ス

異称 今羅甸ニ「ソヒア」ト稱ス常謁垣尔蘭土ニ「ヒココロイト」ト云熟尔瑪丘亞ニ「空ルサリメン」又「ソヒイカ」ラウトト云○此草ヲ誤ラセリヒウムト呼フモノアリ是レ「ヒコ」アルセ子ノ異名ナリ是レ其葉「アルセ子」ノ状ニ似タルガ故ナリ「アルセ子」ノ種類ニ混ズベカラバ「アルセ子」ト「ヒココロイト」ハ性味功力大ニ異ナリ○或ハ「タリート」ト云ムノ形状ニ相似タルヲ以テ惑フモノナリ何則其茎「ステルキリ」ケンデロイトニ稍相似テ葉ハ「タリート」ト云ム

和名野ト甚異ナラズ胡荽唐松

葉ヨリモ狭カラズノ稍厚キカ故ナリ我輩ハ他草ヲ以テタリトトシムニ充ツ節チ前ノ第三卷一章本編スルニ三章ニコレヲ記セリ

性効 性燥ニメ收斂ス微ク清冷ニス

主治 此子服用スルキハ諸泄瀉ヲ止メ赤痢ヲ治シ血痢ヲ止ム

附考

爰ニ怪ムヘキハ古人モ此草ノ本名ヲ知ルモノ有リヤ否ヤラ今ニ至迄見出シタル人ナシ其徴トスベキハ此草多ク用テ諸泄瀉ヲ止ルカ故ナリ又諸病ニ於テ

モ赤痢等ノ諸症ヲ治スル奇草トス

羅別兒ハ是ヲ地和思谷里迭斯ノ「タリ」トシム又「エ」
ルカゲラチナイタロル
ル第二十四卷十六章ナラニ
「コ」多テノ附考ニ出ナラニ
「ク」ヲ疑ヘリ

主治 白コロイドハ甚タ多功ナル瘡家ノ薬ナリ北
方諸国ノバルビールス多用カニルニ瘡及ヒ頑惡ノ諸瘡ヲ治スル

カ故ナリ

○此子赤酒或ハ銅鉄水ヲ以テ服スレハ赤痢ヲ止ル

其最速ナリ故ニ都児格回ノ膏藥師此子ヲ拔羣ノ
良薬トシ伯尔齊亞国及ヒ其他ノ外国ヨリ将来スル
呂卜祿ノ貨賣ス○高墜打撲内部ヲ損傷シ瘀血凝滞
シ燉熱ヲ發スル者酒ヲ以テ服スレハ良効アリ○此子酒
ニ煮テ服スル片ハ諸瘻ヲ驅除ス猶自餘ノ殺毒劑ト
同シ○此草搗キテ金瘡及ヒ諸惡瘡ニ貼シ或ハ其自
然汁ヲ滴スル片ハ瘡中ニ生スル虫ヲ除去ス是レ閃
挫骨傷ヲ治スルノ功「ワール」ルトル此條ニ同シ
○又経久潰瘍及諸腫ニ厚シ貼スル片ハスルイトメコレ
ヲ治ス蓋シ燥メ侵蝕セサレハナリ○世俗ノ説ニ此

草羊ノ骨ヲ損傷シタルニ速ニ此草及ヒ子ヲ以テ患
処ニ貼シ能ク紮定スル片ハ其腐タル骨自ラ相接觸
スト云フ

第十五章

「ワールウルトル」一名「セイムヘイ」

品類

「ワールウルトル」ハ根コノルヲウケテ黒色ナリ別

種ハ根塊節コノルヲウケテヲ為ス今爰ニ兩種ヲ載ス

形状

第一種

大デロトセイムヘイ五山

莖高サ三尺許巨クメ稜アリ中空ニメ「ソクモ」第十一

毛連菜ノ類ガンセンギスルノ如シ葉ハ根ヨ

リ生スルモ莖ニ生スルモ共ニ潤大潤ノ長ク強クメ

糙濤タル毛茸アリコレニ觸ル、汗ハ痒ヲ覺フ形色

共ニ「ベルナギ」第二十一及「ラスセントン」全十

ナ「ニ」似タリ然レ大ニメ長先尖出レンカムハ「

一名「アラン」トウルトル木香ニ似タリ傍ヨリ枝ヲ生

シ花掛列ス甚爰スバシ其状長メ内空白色或ハ赤色

ニメ光沢ナシ稀ニ黄色ノモノアリ花後黒子ヲ結フ

根粗大ニメ長ク外黒色ニメ内白シ粘稠ノ液ヲ含有

スコレニ大ナル功效アリ人多用テ知ルトコロ也

第二種

前條ノ別種ニメ形状モ相似タリ根モ外黒色ニメ内

白ク但塊節ヲ為スノニ葉モ前種ヨリハ小ク莖モ亦

短シ花黄色ナルモアリ

出處

此草好テ路傍下濕ノ地曠野肥地ニ生ス園中ニ

薄しニモ下湿ノ地ヲ良トス

時候 六七月ニ花アリ根ハ時ヲ撰ハスレテ取用ス

異名 此草厄勒奇亞ニ「セイムヘイト」又「ペクト」ト

名ク羅甸ニ「セイムヘイ」又「ソリダゴ」ト云某局ニ

「ゴンソリダマヨル」又「セイムヘイ」ト云又「ウス」ト云

ス「スギリボニウス」ト云又「スギリボニウス」ト云又「スギリボニウス」ト云

斯吉利薄尼勿斯樂兒救斯ハ「イミラ」ト云又「カ」ト云又「アル」

スガリリカト云其他ハ「ラス」ト云又「コルロ」ト云又「業」ト云

瑤尔蘭社ニ「ワール」ト云又「タル」ト云又「熱尔瑪左亞」ニ「ワル

空ルツ」ト云又「スワルツ」ト云又「スワルツ」ト云又「スカント」ト云

ツ「ベイン」ト云又「ル」ト云又「意太里亞」ニ「コンソリダ」ト云

ギラレト云伊斯巴你亞ニ「ヒール」ト云又「ヨレ」ト云又「コン」ト云

「ル」ト云又「ヨレ」ト云又「ヨレ」ト云又「ヨレ」ト云又「ヨレ」ト云

デアス子ト云諸厄利亜ニ「コン」ト云又「フレ」ト云又「別」ト云

ニ「スワル」ト云又「クセル」ト云又「キ」ト云又「フ」ト云

第一種ハ以上ノ諸名ヲ呼フ節ヲ尋常ノ「ワール」ト云

「ル」ト云又「セイムヘイ」ト云又「グ」ト云又「ト」ト云

第二種ハ根ノ状ニ因テ名ク羅甸ニ「セイムヘイ」ト云

「セ」ト云又「ト」ト云又「ト」ト云又「ト」ト云又「ト」ト云

性効 此根性寒ナレモ甚シカラズ粘稠ノ液アリト雖

此皮層ニ瘰癧痛ヲ癸スルナク又味モ辛辣ナラズ淡味

ニノ著シキ味アルヲナシ○或人ノ悦ニ此根粘稠液
アルヲ以テ「ス」ラ一名「ゼ」ノ辛熱ナル粘稠液ア
ル者ト同キト欲ハ甚タ誤ナリ○「ワ」ルルテ「ル」ノ
葉ハ皮膚ヲ刺メ癢ヲ突スト雖任侵蝕ノ性アルニ非
ス外面ノ糙濇ナル毛茸アルカ故ナリ然レ子「レ」尋麻ノ葉
ク皮膚ヲ刺戟スルト同シカラズ彼ハ毛刺アルカ故
ニ皮膚ヲ刺セハ久ク燃熱ヲ覺フ

主治 此根功用多シ金瘡及ヒ諸損傷ニ貼メ治スル
速ナリ○咳嗽ヨリノ唾血「レ」トス「ウ」ヲナス者ニ大ニ功アリ又
肺癰ニ多用スベシ○舍利別ニ作り諸下血「レ」トス「ド」ヲ止メ肺

癰初記ヲ治シ咳嗽ヲ止メ熱ヲ和ケ

「ワ」ルルテ「ル」舍利別ノ方

「ワ」ルルテ「ル」根十六莖甘草根八莖「ウ」フブラ「ド」

根葉冬ノ共ニ二握「ピ」松子仁十二莖二十個蜀葵子

二莖「レ」嬰粟「レ」一莖

右併合メ水ニ煎シ水九十六莖目ニ至テ布ニテ濾シ

大白沙糖蜂蜜各四十八莖ヲ入レ再ヒ煮テ舍利別ト

ナリト

○此根経久ノ腎ノ腫瘍血ヲ下スモノニ用テ忽ニ功

ソノ又婦人ノ下痢及泄瀉ヲ止ムルニ水煎メ服ス又
沙糖及ヒ蜜ニ糝シ貯テ數日屢用ベシ○身体内部ノ
損傷ヲ治ス○大腸癩痛痔瘡出血ニ甚功アリ

殊用此草金瘡及諸損傷ヲ治スルヲ驗アルトハ今試
ニ諸獸肉類ヲ細ニ截断ノ是物ト共ニ煮ルトキハ其
肉一処ニ相混合メ一塊トナリ殆ト最近能粘接ス分解ニ難キニ至
ルコレヲ以テ徵スベシ

附考

塊節ワールウルトル

吉留穢鳥斯ノ異草譜第五卷五十二章ニ論スル所ニ

因テ此ニ辨ス此草高サ尺許稀ニコレニ過ルモノアリ
リ莖五稜ニメ多ク水気ヲ含ム葉ノ莖ニ着スルト大
ワールウルトルノ如ク多カラズ状モ亦小ニメ薄ク
且軟ナリ手ニ觸ルニ糙滑ナラズ味淡シ花莖頂ニ
榮ス黄色光沢ナシ状大ワールウルトル花ニ似テ狭
長内空ニメ香ナシ瓣五ニ分裂メ五葉因ク並フ中心
ニ挺出セル花心葉アリ花後莢ヲ結フ亦大ワールウ
ルトルニ似タリ内ニ子アリ「エキウム」第二十一卷ノ
子ト同シ根ハ長ク細ク柔軟ニメ断ヤスシ太サ小指
ノ如ク塊節多ク隆起ニ織細ノ鬚根ヲ附着ス莖莢枝

考ニ稜アリ葉ニ毛茸アリ吉留徹烏斯又曰ク此草荷
斯天祿以^キ及^ヒ二翁加里亞回中ニテコレヲ見タリ森
林陰翳ノ地或ハ灌木等ノ生スル処ニアリ此草ヲ性
効ヲ考ルニ尋常ワールウルテト一般ナリ

○此物熱爾瑪尼亞ニ於テワールウルテトノ一種ト
ス其枝柔軟ニノ他草及ヒ灌木ニ纏繞ス故ニ羅甸ニ
ゴンソリダニヨルアムアレキシカウルリスト名ク
羅別兒曰ク或人ハ此草ヲ以テ西印度ノ^ルハバサン
ク夕ニ充ツ或ハ偶黃花ノ者ヲ見出ノ^ルベルナギ^ニ
^{十一卷}ナリトス是レ葉ノ似タルカ故ナリ然レ根ハ
^{九章}

異ナリ○羅別兒ハコレヲ^ルベルナギ^トノ一種トシテ
彼ノ條下ニ收メ^ルヘルバリス^トニ^ル最^小假^ルベルナギ
トトス羅甸ニセイムヘイラム^トニ^ルレベンスボ
ラギニスハ^レトト名ク故ニ今此條ニ收ム○又一種
セイムヘイラムノ名ヲ^ル稀スル者アリ則チ是ラ^ルゴ
ソリダノ種類トス或人ハ^ルゴ^トイ子^ルレ^ト
セイムヘイラムパトレウムト名ク○又一種セイ
ムヘイラムパトレウムト稀スルモノアリ葉ハ深キ
缺刻アリ羅別兒ハ是ラ^ルゴ^トイ子^ルレ^トノ種類ニ充ツ
身羅別兒ハ尋常ワールウルト^ルラ羅甸ニセイム

ハヤ^クア^ルト名ク又赤花ノ者ヲ「ワールウルト
此ノ牡丹」シ白花ノ者ヲ北生トス

主治 意太里亚ノ属那百尔斯及ヒ掘納亞ノ某處ニ於

テ此草根ヲ糖藏ニシ多ク製シテ諸邦へ運送ス是レ

甚タ多功ナルヲ以テナリ○此根ヲ咀嚼スレハ渴

除キ咽喉硬腫ヲ治ス○此根ゴロイスコロイト^{第一}

卷十九章 葉ト共ニ諸般ノ熱腫及ヒ大嶋ノ

○哈列釋斯曰ク「ワールウルテ」ルノ功ハ「セー子グ

ール」ト相似タリ然レ味甘カテス香モ芳シカラズ「セ

ール子グール」ト異ナリ而メ彼人ハ此ヲ用ルトコロ

ニ「セー子へい」ムペトレウハラ用ユ○布力左勿斯

曰ク此根ハ骨ノ損傷ヲ接シ痊ス○此根新タニ土中

ヨリ掘出シタル者ハ薑^{ワビ}擦ニスリ草及ヒ木綿ニ

膏ノ如ク貼スレハ速ニ痛風ノ痛ヲ止ム是レ屢試ム

ル所ナリ○此根乾シ末トナシ糊^糊劑ニ造リテ小兒ノ

「ゲ」ケウルトニ甚タ効アリ又下利ヲ止ム又膏トナ

シテ豆粉^{豆粉}ヲ和シ小兒ノ「ゲ」ケウルトヘイトニ貼メ

甚良ナリ○此全草ノ莖露ヲ采リ前ノ諸病ニ甚タ奇

効アリコルニ木綿布ニ浸シ外貼シ或ハ内服ス○或

人ノ説ニ此根ノ莖露ハ多服久服スレハ甚タ功アリ

シケルセシ

即チノ人或ハ内部ノ損傷ヲ治スルニ酒或ハ
麥酒又水初メ服スル十六日々朝暮ニ服ス

殊用 此根濃膏トナシ用ユ

撰脩 羅別兒曰ク凡用ルニ赤花牡生ノ者ヲ以テ白花

北生ノ者ヨリハ勝レリトス

第十六章 「ランセルフロウ空ンメルキコロイト」

一名「ロンゲンコロイト」 是レ即チ「セイムヘイ五

山ノ斑^{プスゲン}点アル者ナリ

形状 「ロンゲンコロイト」モ亦「セイムヘイ五山」ノ一種

ナリ其状「セイムヘイ五山」ニ似タリ然レモ莖短ノ一咫

ニスキズ葉モ稍小ニシテ毛茸アリ而シテ斑

アリ稀ニ斑點ナキモアリ花モ亦「セイムヘイ五山」ニ

稍相似タリ初メ赤色已ニ開キハ紫碧色ニ変ス根ハ

硬ノ黒色多ク岐レテ傍引ノ科ニ土中ニ下リ鬚根ヲ

生ス鬚亦黒色或ハ褐色ナリ

出處 此草好テ陰地潤湿ノ地ニ生ス或ハ

テモコレヲ見タリ別謁竟^ル爾^ト蘭^土ニテハ間斑点ナキ

モノアリ園中ニ栽ルニ地ニ應スル片ハ甚タ繁茂ス

異稱 本草家ハ羅甸ニ^曰ルモナリア又^曰ルモナリ

ト云法列カ勿斯^コ郭兒^ス述斯^スハ^セイムヘイ^ムシ^ムト

ステレト名ク而モ前ノ^セイムヘイ^ムト^ルル^ルノ

種類トス是レ此草ノ性ニ因ルナリ是故ニ羅甸ニ^セ

イムヘイ^ムマク^クロ^ロシ^シト云義ナリ其斑^点アルヲ以

テナリ業謁^楚爾^蘭杜ニハ^ランセルフロウ^ウシ^シメル

クコロイ^トト云^吾壽^ノ乳^然任^多ハ^ロン^ゲン^コロ^イ

ト^肺草^ト云^〇苔^類ニ^統トコロノ^曰ルモナリア一名

ロンゲンコロイ^ト石^花トサカ^コケ^トハ大ニ別種也

性効 ロンゲンコロイ^トノ性ハ^ワール^ウル^テルニ似

タリト然任根^ワール^ウル^ト此ノ如ク粘稠ノ液ナリ

今此物ノ質ヲ考フルニ根硬シテ木ノ如ク蓋シ其性

燥ニノ最任收斂ノ功アルベシ

主治 人此草ヲ以テ肺癰ヲ治スル^トヲ稱ス尚其功^ワ

ール^ウル^ルノ如シト

殊用

此葉ヲ以テ鶏卵餅ニ入レ又菜蔬ニ供ス

エリエルク

附考

「ロングコロイト」ハ此國ニ於テモ亦「ランセル」フロウ
空ニスロント呼フ是レ其葉白斑点アリテ乳汁ノ滴
タルカ如キ故ナリ園ニ栽ルハ野生ヨリ大ナリ葉潤
クメ糙滴毛茸アリテ「ワールウル」ノ如シ面暗蒼
色花耐メ後小珠ヲ結ビ内ニ子ヲ含ムスキト羅別兒コレヲ
「モナリア」ニク「ロサ」又「ビュルモナリア」ニホ
リラボラギニスフロリビュスプリヒレヘリスビュル
レイスト名ク而メ此花始メ色ナクシテ形ハ「スレウ

「ブル」第五卷三十一章ニ似タリ子ハ黑色ニメ

「ナギ」第二十一卷九章ノ如シ葉ハ本潤クメ先尖レリ

此草味悪シカラズ菜蔬ノ用ニ充ツベシ羅別兒又曰

ク此草根粘稠ノ液アル「スレウ」ブル「ム」ヨリ

ハ濃厚ナリト

○此草鹿好テコレヲ食フ故ニ熱尔瑪屋亞ニ於テ「

「スコルト」名ク又「アツケン」カラウト「ケレイ」

「ル」「ツ」云云折部「サニ」ヘルベアウクス「ボル」

ト云「意」大望亞ニ「ボル」モナリア又「ボル」モナリアセコ

「シ」ダト云

○白花「ロシヤ」ゲコロイト 羅別兒曰ク業褐堉尔蘭杜ノ國中ニ多ク見タリ

○「ロシヤ」グロッセ葉ノ「ロシヤ」ゲコロイト 羅別兒曰ク羅甸

ニ「ロシヤ」ルモナリアホリースエキト稱ス其葉狹長ニ

メ「ロシヤ」グロッセガマチ 卷二十一 葉ニ甚似テ最ニ狹シコレモ亦

乳汁ヲ滴シタル如キ斑点アリテ毛茸多ク糙濇トナ

刺戟ス根鬚多ク褐色「ロシヤ」グロッセト同シカラス「ロシヤ」ゲ

コロイトニ同シ茎花共ニ「ロシヤ」ゲルコロイトニ異ナ

ナルトナシ

○松節齋ノ「ロシヤ」ゲコロイト 此草松節齋ニ於テ曰

ルモナリア「ロシヤ」ノ名マリト雖モ尋常ノ「ロシヤ」ゲルコロイト

トトハ大ニ異ナリ「ロシヤ」コレイエニ卷二十一 五章蒿苳類ノ種

類ニメ「ロシヤ」ンゲルコロイトノ葉メ汚点不似モノ也

花ハ「ロシヤ」ハヒクスコロイト全十卷 類ニ似タリ茎ハ細小

柔脆ニメ「ロシヤ」コレイエニノ如シ高一掌或ハ五寸許根

ハ「ロシヤ」ベトニ第二卷 似テ小ナリ小シク鬚アリ羅甸

ニ「ロシヤ」ルモナリアガルコロッセムフロレヒラシト又ア

ウリモテ「ロシヤ」リスマヨルタラギト名ク松節齋ニ於テ

壁間石地等苔ノ生スル処ニアリ

○他邦ノ白「ロシヤ」ンゲルコロイト 羅別兒曰ク其葉地

ニ地ニ塌ノ生シ「ウテ空キブレ」第十四卷ニ及「アブリ」第十六章

タニニカニ第一卷九章「ウツト」相似タリ花ハ「ナクトシカイ」第十四卷

菴葵ニ似タリ然レ小ニメモスマクク羅別兒ハ羅甸ニ

「ロ」ルモナリア。アルバ。エクツカト名ク是レ當ニ「ロ

ンゲコロイド」ノ如キ斑点アルベシ

①「ロンゲルコロイド」ノ別種ハ吉留識烏斯ノ異草譜

第五卷五十四章ニ多ク挙タリ

〔主治〕「ロンゲルコロイド」ハ古ヨリ薬局ニテ用ル者ナ

レ但食品及「鶏卵餅」ニ用ル「スレウテルブル」トム

類櫻草ノ如シ是レ其性質ノ甚ク近カ故ナリ

松節薬人及「吾邦」婦人此葉ヲ「ソパン」湯ノ及「蔬

菜」ノ内ニ雜用ス或ハ鶏卵ヲ加テ草餅ニ造リ「ロ」ス

及「肺病」ヲ治ス是レ心臓ヲ強壯ニスルカ故也是故ニ

此草山中ノ險地ニ生スルヲ採用メ園圃ニ移シテ多

ク培養ス○此草ハ一ノ金瘡劑ナリ屢用テ知トコロ

ナリ斷テ「ロ」セテ治スルニ於テ其名アレハ金瘡ヲ治ス

ルカ如ク効アラサル也○或人ノ説ニ「尋常」ロンゲル

コロイド」ハ吐血ヲ止ルニ甚ク効アリ或ハ散下ナシ

或ハ水煎メ服ス○此草ノ莖露ハ右ノ諸症ヲ治ガル

ニ甚速ナリ

「ロンゲルコロイド」ノ舍利別 肺ノ諸病ヲ治ス
「ロンゲルコロイド」自然汁三斤上好砂糖二斤
右件合メ煮過シ舍利別ニ至ラ度トス凡ソ服スルニ
此草ノ蒸露ヲ以テス吐血ヲ治ス「ローゼ」ノ腫瘍ヲ療
スルニ甚効アリ
羅別兒曰ク松節藥ノ「ロンゲルコロイド」或人ノ説ニハ「ローゼ」ノ
病及ヒ諸瘍「ローゼ」ノ「ロンゲルコロイド」ニ甚効アリ

第十七章 「セネグール」
一名「イングール」
又曰「セネラ」

和名十二下重
漢名夏枯草

形状 此草葉潤ノ長ク「ラレガ」第九卷ヨリ大ナリ柔軟
ニメ^微鋸齒アリ石地及ヒ曠野ノ地ニ生スル者ハ葉背
暗赤色又紫色ヲ帯フ茎四稜ニメ微毛茸アリ中空ニ
兩葉相對シ其茎半ハ地ニ倒レ半ハ直立ス高サ一咫
許又高キモアリ花茎ヲ圍リ葉ノ際ニ生ス碧色ナリ
根ハ鬚多クシ

出處 此草石地或ハ湿気アル地ニモ生ス然レ陰地ヨ

リハ開 豁向陽ノ地ニ多シ又園圃中ニモ亦生ス諸國
其ニ甚多キモノナリ

時候 花ハ四月ニ開ク又稍遲キモノアリ

異称 此草金瘡藥トス故ニ羅甸ニソリダコ又コン
ソリダト名ツク又コンソリダメギアト名ク業謁理
尔蘭杜ニセネダルーシ又イングルーシト云熱尔瑪
尼亞ニモシンズル又ゴルデシンズルト云此國ノ幕局
ニ羅甸ニテ「ロヂ」ト云柳尔力勿斯曰ク松節藥ニ「ロヂ
グ」ト名ツク「ロヂ」ト云スノ書「ラウレン」ト云ト
云フ意太里亞ノ屬「ロヂ」ニテハ「モサンドラ」ト云フ

○「セイム」ヘイ「ロヂ」ペト「ロヂ」或人ノ考ニ「セネダルー
シ」ハ一種ノ草ニメ「セイム」ヘイ「ロヂ」ノ種類ナリ故
ニ故ニ地和思谷里送斯ハ「ペト」レウ「ロヂ」ノ稱ヲ附接ス
是レ「ステーン」セイムヘイ「ロヂ」ノ義ニメ石地ニ生ス
ル「ロヂ」ル「ロヂ」ト云カコトシ然レ此説得レリ何
則「セイム」ヘイ「ロヂ」ハ「ロヂ」ハ茎細ク「ロヂ」ガ九
卷十ノ如ク又「ロヂ」ハ全八ノ如キ小毬ヲ結フ全体木
七章ニメ佳香アル草ナリ今ノ所習「ロヂ」子「ロヂ」ハ然
ラズ木様ニ「ロヂ」ア「ロヂ」ス佳香モ「ロヂ」ガ「ロヂ」ノ茎ニ似
テ多岐レリ又「ロヂ」ノ如キ小毬ヲモ結フ「ロヂ」ナレ

性効微熱ニメ氛氣稍微ナリ燥ス下強ク收斂ノ性ヲ
帶フ

〔左治〕此草跌仆折傷打撲音腫瘀血凝結シテ腫瘍トナ
ル者ヲ治ス飲劑トメウシドクランケ金瘡湯ト名ク矣ニ此物滯血ヲ
解キ惡血ヲ去ル良劑ナリ○柳ルカ勿斯曰松節察ニ
於テ「サニケル」變豆菜ノミツバムヲ加ヘ瘍科ノ医コレヲ貯
テ金瘡ノ要藥トス此草特ニ内服スルノミナラズ外
貼スルモ最良功アルモノナリ○又肝藏經久ノ諸病
ニ最良功アリ何者其閉塞ヲ開通シ内部諸臟ヲ強
壯ニスルカ故ナリ○諸瘡膿腫ニ良ナリ殊ニ面部四肢

發スルモノ諸瘡ニ最良功アリ自然汁ヲ滴スルヲ妙トス後ニ此
ヲ末トシ糝附ス○馬ニ乘リ奔走シテ股臂ノ皮膚剥
傷スルニ此自然汁及ヒ細末ヲ貼シテ功アリ又其他
諸部皮膚剝傷ニモ亦佳ナリ

附考

白花「セ子」グルーシハ尋常「セ子」グルーシニ全ク相似
タリ茎地ニ傍引スル「ヘン」ニングエロイト第二十
四章〇コノ如シ葉長メ先溜ク軟ニメ皺アリ黯綠色且
ツ独度涅烏斯ノ倫スル如ク茎細ク軟弱ニメ地ニ倒
レ彼是ニ附者ニ夫ヨリ方茎直立シ高ク一咫許葉間

花ヲ生ス甚愛スベシ差ラ圖ヲ附者シ雪白色根ハ鬚
ニノ柔ナリ○吉留藏鳥斯ノ説ニ稀々灰色ノ花アリ
○淡紅花セ子グルーシハ吉留藏鳥斯ハ「セ子グルー
シノ第一種ニ拳テ^コ豆^コラ^コカル子ヲフロ^レト名ツク
形状全ク尋常セ子グルーシニ相似テ但花淡紅色ナ
ルノニ其状全体尋常ノモノニ比スレハ莖軟弱ナリ
荷斯天祿必吉及^レ奇^ハ乙^イ堙^ダル^ル山ニ生ス
○一年生ノ「セ子グルーシ」 羅別兒曰ク一種一年
生ノ者アリ花尋常ノ種ト同ク其莖直立ス但尋常ノ
モノニ比スレハ花莖共ニ肥大ナリ葉ニ尋常ニ比ス

レハ潤メ圓ク糙濇トノ毛茸アリテ勁シ

異稱或人ノ説^コ「セ子グルーシ」ト「ア^レ子^ル」トハ共

ニ松節^ノ於テ「ア^レ子^ル」ト名ツク是レ其葉狭長

ニメ稍鋸齒アリテ ア^レク^ツセ^イダ 黧赤色ニメ常春藤及^レ

「ア^レ子^ル」^第二十八^ノ卷^第十四章^ノ葉ニ同シキカ故ナリ羅

別兒曰ク「セ子グルーシ」ハ郭兒^コ去^ス斯ノ「ヘルバサク^ラ

ナリ又按^レ護^シ兒^ル樂^ラ喇^ラノ考ニ從ヘハ「アルテ^レネ^カパ

ニデクタリ^トス意太里亞ニ「ゴンソリ^ダメ^サナ^ト

云^レ獨^ク涅^ウ鳥^スノ説ニハ「モ^ランド^ラ」又「ヘルバラウ^レ

ニ^ナト^ス又此ヲ「ア^レ子^ル」ト名ツク一種ニ充ツ

主治 高墜墮落ニ飲劑トメ良ナリ○癰ヲ治スルニ先
ツ玫瑰蜜ヲ以テ洗ヒ此草自然汁ヲ貼ス○口_レ中_ニ齒齲腐爛濃漬
ハ_レハ黃疸及ヒ稽留熱ヲ治ス○口中_ニ齒齲腐爛濃漬
ヲ治スルニ水煎シテ含嗽劑トス

第十八章 「ブユイ子ル」

和名ウツボクサ 漢名滁州夏枯草

形状 此草方茎ニメ細ク毛茸アリテ枝地ニ布キ直立

セズ末ニ至テ茎立ツ葉潤クメ長ク先尖リ_レ江_ニテ_レ薄_ク

葉ニ似タリ然レ小ニメ軟毛茸アリコレニ觸レハ稍

糙滑ス香氣スクナシ花茎頭ニ穂ヲナシ多摺簇ス褐

色中ニ青色ヲ交ヒ黯紫色ノ如シ又稀ニ白色ノ者アリ

根ハ鬚多ク髪ノ如ク一処ニ懸垂ス

出處 荒瘠ノ石地或ハ原野草莽ノ地ニ生ス或ハ森林

中ニモ亦コレアリ

時候 五月ニ花ヲ発シ夏ヲ過キ秋ニ至ル時ニ臨テ採
收シ薬用ニ供ス

異稱 今人此草ヲ羅甸ニ「ブル子ルラ」又「アヒ子ルラ」ト
云フ熱尔瑪尼亞ニ「ブラウ子ルレント」云業福埤尔蘭
杜ニ「ブルイ子ルレント」云抹質玉埤斯ハ「ゴンソリダミ
ノル」又「ソリダゴミノル」ト云柳尔カ勿斯ハ「一ノ異號」
ヲナシテ「マードテリ」ヘシ第八卷二十
三章〇東菊ヲ充テ、真
ノ「ゴンソリダミ」ノ「ルトス」〇或人ノ説ニハ是モ亦「セ
イムヘイ」互ム「ペトレウム」ニ「アラストス」何則「アヒイ
子ルレント」ハ佳香ナク又木蕪ニモ「アラホル」故ナリ又「コ

レラ真ノ「セイムヘイ」互ム「ペトレウム」ナリトスルハ
彼ノ書中ニ云ト「コロト」能ク相似タレハナリ

性効 温ニメ燥ナリ少ク淨除ノ功アリ其味中等ノ苦
ナルヲ以テ知ルベシ

主治 此草功力「セ子ダルー」ント全ク一般ナリ故ニ内
外ノ諸創ヲ治スル「セ子ダルー」ト同等ナリ凡ソ
用ルニ酒ニ煎メ飲服ス〇又口中腐爛濃潰ヲ治シ又
舌病ヲ治ス最佳良功アリ「デブルイ」ト云病アリ其
病タル舌燥熱シ乾燥ガラフキ 大ニ腫テ黑色ニ変ス是レ
熱尔瑪尼亞ノ人軍中ニ於テ久シク心ヲ勞スルヨリ

ノ祭ス故ニ「チ」ブ^レイ^レシ^ノ右アリ然レコレハ稀ナリ
今ハ暫留熱及ヒ頭眩^ノ精神ノ驚怖錯乱ヨリ祭スル者
多シコレヲ治スルニハ舌下ノ絡ヲ刺シ後^ノ子^ル
ラ^ラ水煎シテ病者ノ口古ヲ洗ハシメ或ハ嗽セシム
或ハ醋及ヒ玫瑰露ヲ加ルモ亦佳ナリ○前ニ論スル
病ハ近來ノ新病ニメ古人ノ未知ラカルトコロトス
然レ^ハ勿^レ埒^ス斯^レ謁^ス及^ヒ涅^ト託^スノ書第三卷ニ「^レ五^リイ^シペ^ラ
スセレブ^リト云病アリコレヲ得スレハ頭腦ノ「^レロ^ー
セ^レ及^ヒヒ^ーリ^クヘイ^トト云フ謁^ス及^ヒ涅^ト託^スモ此病ヲ療
スルニ舌下ノ絡ヲ刺シテ治スルヨシ云ヘリコレニ

因テ考ル^ル其^ノ真^ニ療^法ヲ^レイ^レシ^テ治スルト治療相同
シ恐クハ同病ナルベシ

附考

種類 意太里亞ニ於テ^レ子^ルラ^セ種^ヲ見^タリニ
種ハ青花ニメ一ハ莖葉毛茸アリ一ハ葉軟ニメ滑沢
毛茸ナシ甚タ「セ」子^グル^トニ同シト雖^レ稍^異ナリ
二種ハ紫花ナリ三種ハ白花ナリ即チ吉^ル烏^スノ
本草譜第四卷二十七章ニ明ニ辨セリ今其說ヲ畧シ
花色ヲ分テ二種ヲ奉ク

第一種 異種ヲ^レイ^シ子^ルラ^シ

此草方茎ニメ柔毛茸アリ節アリテ兩葉相對ス微毛
茸アリ尋常列ル子ル^レ葉^レ殆ト相似タリ味苦シ
莖頭穂ヲナス尋常ノ者ヨリモ大ナリ花モ甚大ナリ
他ハ異ナル^レナシ香甚アレカラス花開ハ唇状ヲナ
シ常呂ヨリハ稍黯紫色又或ハ光沢ナキモノアリ或
ハ白色灰色ノ者アリ各穀中ニ四子ヲ結^ルテ根黒色ニ
ノ甚巨ク且白鬚根ヲ以テ地ニ附着ス年毎ニ傍ニ新
芽ヲ発ス○荷新天祿以吉ニハ夏月花ヲ開キ七八月
ニ子熟ス○或人^ニ是ヲ^レア^レト^ルラ^レプ^ルリ^テノ^ンヒ^ルガ
リスト名ク

芽二種 異種白花ヲ^レイ^テ子^ルラ^レ
吉留徹鳥斯ノ^レア^レト^ルラ^レセ^キン^ダノ^ンヒ^ルガ^リス
アルボフロ^レト^ル名^クル^者ナ^リ此亦方茎毛茸アリテ
枝多シ高ク一咫許毎節兩葉相對シ葉狀圓ノ稍長ク
深缺刻アリテ常呂ト異ナリ味收溜キ^ル常ノ^レア^レト^ル
子ル^レト^ル同シ莖頂枝頭花ヲ発シ穂ヲナス^ト常呂ト
同シ唯異ナル^ノニ何則或ハ雪白或ハ灰白或ハ淡紅
或ハ紫色ノモノアリ子ハ他種ニ同シ根ハ鬚ニシテ
年々新苗ヲ生シ新陳相代^ルス○此種ハ花ヲ発スル
^一第一種ヨリハ早シ五月或ハ六月ニアリ○草莽ノ

地及石地河迎流水ノ傍ニ生ス

異稱 本草家ノ各ノ考ヲ以テ此草ニ名ツクル一一般
ナラス何則或人ハ「アビイム」葉ノ状ニ似タルヲ以テ
「アビイラト」名クト又或人ハ「アゴンソリダ」ニト
名ケ羅別兒ハ「セイム」ヘイムムペトレウムニ充ツ是
レ真ノ「セイム」ヘイムムペトレウムニ充ラズト雖モ
既ニ此物ハ古ヨリ蒙土身カヒル^{モト}ノ「^ルス」^ル「セイム」ヘイ
ムムペトレウムト名ツケアリテ故ナリ。○是故ニ独
度涅烏斯ハ一ノ異考ヲナシテ彼ノ諸論ヲ考セ而メ
其考ヲ定テ多ク言語ヲ作りテ我輩ノ國異ヲ弁セリ

ラシメントスル也。○又金木傷ヲ治スル故ニ拂郎察
ニ「ヘルベアウカル」ペンキールト名クト。又一説ニ「ア
ビイ子ル」ト名ルハ「アビイ」^ルヲ治ルガ故ナリ。即
チ「アビイ」ンヘーレンデコロイドノ意ナリ。又一説ニ
「アビイ子ル」ハ「アビイ」ンヘーリゲト^ル樽^ルヲ如シト
則チ同義ナリ。

主治 「アビイ子ル」ハ金創ヲ治シ凝結ノ血ヲ溶化シ
黄疽及ヒ臍肝脾ノ諸病ヲ治ス。○浸淫瘡口中及ヒ陰
部ノ諸瘡ヲ治ス。此草自然汁ヲ以テ患処ヲ洗フ。○内
部ノ損傷及ヒ小兒ノ「^ル」ケウルトヘイト^ルヲ治ス。○

或人曰「ゴロイ子ルレハ性寒熱ノ中等ニアリトス或ハ微寒トス是故ニ油又醋ニ調和セラ頭痛ニ額上ニ貼ス○此草ノ蒸露ヲ服スルハ身体内部ノ諸損傷ヲ治ス胃中及口諸尿管ニアル所ノ凝血ヲ溶化ス或ハ内部ノ燥熱ヲ緩和ス○又此ノ蒸露ヲ服スレハ人ヲノ疫ヲ拒カシム或ハ胸膈ヲ蕩滌シ小水ヲ利シ三日熱四日熱ヲ治ス婦人子宮中ノ腐敗ヲ止ム○金創子傷燉衝ヲ煎ル者ハ右ノ水ヲ以テ洗フ○前條ノ諸ニ此物ノ花葉共ニ水煎シ或ハ酒及口蜜水ヲ以テ煎服スルモ甚良効アリ

第十九章 「カレイヲハイルラテ」

和名大根草 金水引 漢名水楊梅

品類 今此章ニ二種ヲ論ス一種平地ニ生シ一種ハ山中森林ノ地ニ生スル者ナリ

形状 第一種

人ノ能ク知ル所ニメ其葉粗糙ニメ三裂シ梢「アギリ」モニ龍牙草ニ似タリ然レ黯綠色ニメ勁ク鋸齒アリ葉茎長ク脚葉ニツラ生細ス茎ヲ抽ク高一尺五寸余ニ至ル茎端枝ヲ分テ小黄花ヲ開ク「ハイフヒンゲル」コロイト第四卷三十二及「トルメン」ナル全三十三三章○

蝦夷方言ア花ニ髣髴タリ花後漸々ニ小圓球ヲ結フ
ウシキナシ
熟スレハ人衣ニ粘ス根鬚多シテ黯赤色其氣丁香ノ
如シ故ニ名アリ

茅二種

是レ山草ニメ其葉第一種ヨリハ厚大ニメ濳毛多シ
且ツ圓ノ三裂セズ葉也鋸齒アリテ長茎ニ脚葉ヲ着
ス細茎ヲ抽テ枝ナクシテ節アリ茎端但一花ヲ着ス
第一種ヨリハ大ニメ瓣多シ金黄色花後刺毬ヲ結フ
根ハ長ク横リテ巨ク第一種ヨリハ鬚少シ香氣ハ又
丁香ノ如シ

出處第一種ハ原野路傍園庭ノ傍樹籬等ノ辺ニ生ス

閑寂ノ地ヨリハ好テ陰地ニ生ス

第二種ハ高山深林ノ中ニ生ス別謁覓ル爾蘭土ニ生ス
ルノミナラス諾ル爾蔓送シ塩シ諸厄利亞等ニモ亦有之

時候兩種共ニ五六月ニ花アリ又遅キモアリ

異称第一種ハ今羅甸ニテ「カレイラヘイルラ」ト名

ク是レ其根ノ香「デイロフヘルスナード」ト名
似タルカ故ナリ或ハ「コレラ」サナシ「ダ」又「ヘルバ」
子ク「タ」ト云熱マ馬ヤ亞ニ「ベ」子ク「テン」空ル「ソ」ト云
部ラ樂ラ旁ト土ニ「カレイラヘイルラ」ト云ト松部樂部ニ「ガリ

ラトト云語厄利豆ニ「アウー」ト云○本草家ノ一
説ニ布立左勿斯ノ書第二十六卷七章ヲ説ニ扱リテ
強ラコレヲ「ゲウ」トナリト思ヘリ我ハ此説信シカタ
シ布立左勿斯ノ説ヲ見ルニ省畧ニメ扱トシカタシ
何則彼書ニ「ゲウ」トハ^根細メ軟ニ黒色ニメ佳香アリト
ノミアリテ他ハ論ナシ

第二種 當時ノ本草家コレヲ「カレイ」ラヘイルラシ
ト稱ス業謁堉尔蘭杜ニ譯メ「ベルグカレイ」ラヘイル
ラテト云フ○彼ハ「バツカリス」^{第九卷二ノ章ニ記スル}
所ト稍相似ト云ラ以テ一物ナルベシトス彼ノ章ニ

ハ花紫色ニメ微白ヲ帶フトアリ此処ニ於テハ花金
黄色ト云其他及ヒ葉形等ハ「バツカリス」ニ大ニ近シ何
則「スワル」テヒラ^{第六卷一ノ章ニ記スル}ヨリハ大ナリ其茎高ワ
一尺半ニメ節アリテ膨脹ス茎ニ附葉ハ下ノ葉ヨリ
ハ小シ鬚根ノ香「ゲイ」ト云ルスナリゲレン^{母丁ニ似}
タリ然レ但古人ノ書ニ「バツカリス」ノ鬚根ハ「シ」トモ
ム^桂ノ香ニ近シト云ラ異ナリトス其他ハ異ナルト
ナシ何則「ゲイ」ト云フヘルスナリゲレン^{此明徴ハ}ノ香ト「シ」トモ
モ^シムトハ凡テ一般ナリ其細枝ヲ其細枝ヲ「ゲイ」ト
フヘルスナリゲレント係セ見レハ古人ノ所謂真ノ

「シナモント」ナリ然に當時ノ人ノ考ニハ多ハ古人ノ
「シナモント」ハ「カ子」ト云テ如此充置タリ我
輩此思ヲ存ノ論セサルニアラズ一ノ善考ニ於テ極
メタリ何則地和思谷里送斯ニ扱ル片ハ「シナモント」
ハ他物ニアラズ細小柔軟ノ枝ニメ小ナル黒キ節ア
ル小枝ナリト其コトク凡テ木様ノ小枝ヲ「カロフヘ
ルスナードゲレン」ヲ以テ雜ヘ煮テ「カロフヘルスナード
ゲレン」ノ氣ヲ移セハ香味共ニ稍相同シ其功モ亦稍
弱シト雖に相近シ是レ其小枝ノ相似タルカ故ニメ
今ニ至テハ「カロフ」貴重ナル者少ク又「レラ」用ル者

ナシコレヲ古人ハ「シナモント」ノ名ヲ與ヘタリ是レ
「カロフヘルスナードゲレン」ハ古人ヨリモ大ナル多
ノ明徴アルガ故ニ人此小枝ヲ真ノ「シナモント」ニ充
ル「ナシ」是レ今ニ於テハ貴モノ少ク古人ノ迷ヘル
「ラ」徴セリ○爰ニ甚タ明徴アリ今我輩ノ記スル所
ノ「ベルグカレイ」ヲ「イルラ」ノ根ハ「ゲイロフヘル
スナードゲレン」ノ香ニ近シ「シナモント」ノ香モ亦同シ
是レ古人ノ所謂「シナモント」ハ今帽フ所ノ「ゲイロフ
ヘルスナードゲレン」ト一物ナル「明ケシ」此後ニ亦「
ルグカレイ」ヲ「イルラ」ノ根ヲ載テ古人ノ「バツカリ

ト一般ナルヲ示ス但其異ナルハ前説ノ如ク
「バカリ」ト「バ」ガカレイラ「イル」ラ「ト」ハ花ノ色
同シカラサルノミヲ明ニス而メ「バ」カリスハ此書ノ
第九卷ニ於テ詳ニ辨スベシ

性効 根葉共ニ其功著シキ燥ニメ少^微外^微温且ツ蕩滌ノ

効アリ

主治 此草根葉ヲ水煎メ用レハ胃ヲ強壯ニシ粗大ノ
モ^{ヘイト}ノ消化ス疝及ヒ大小腸ノ痛ヲ緩ラケ毒虫^モ咬
ラ治ス○此根或ハ葉ヲ取り酒又水煎メ服スレハ腸^{プレウ}
痛ヲ治ス^{リス}肝^{リス}藏^{リス}閉塞ヲ開^{リス}達^{リス}シ粗^{リス}糲^{リス}水^{リス}液^{リス}ヲ消^{リス}シ胸中及

内臓ヲ蕩滌シ粘稠ヲ稀釈シ風氣ヲ驅逐ス酒煎スレ
ハ其功最速ナリ○前方ヲ服スレハ體中諸部ト在
テ^{ツト}衝^{ツト}スル所ノ凝血ヲ融^{ツト}解^{ツト}シ其病原ヲ除ク是故ニ
根及ヒ葉ヲ飲^{ツト}制^{ツト}トナシ用レハ打撲損傷高墜ヨリ受
スル所ノ体中内部ノ諸損傷ヲ治ス○此草水及酒煎
メ新舊諸損傷ヲ洗フ大ニ益アリ

殊用 此草根乾シテ醋少許ヲ注キ衣袋ニ収テ衣魚ヲ

辟ケ且佳香ヲ止ム

附考

此草松節桑^ト甚多ニ節^トナ^ルベノ^トイ^クテ^ト名^{ツク}

或ハ其根甚夕短ノ黄色甚佳香アル鬚根ヲ得ルヲアリ又出地ニ依テ其氣全クコゲイロフヘルスナリケルニ似タル者アリ

山バダ「カレイヲヘイルラテ」

葛福留斯吉留徹烏斯先生ノ異草譜第五卷十一章ニ載ス是ヲ「カレイヲヘイルラテ」ナルピナ。アウレヲ。フロレト名ク即チ金黄色ノ山バダ「カレイヲヘイルラテ」ト云義ナリ

懸垂花山「カレイヲヘイルラテ」

是亦全書ニ載ス是ヲ「カレイヲヘイルラテ」ナルピナ。

ミタニテ。フロレカ其茎紫色ニメ小枝ニ及ブ花懸垂シ

五瓣六瓣或ハ七瓣ノ者アリ赤色受スベシ圓シテカ苞

ナク多ク攢簇メ中心ニ黄花莢ヲ着ス又紫色ナルモ

アリ子ハ尋常ノモノト同シ茎葉共ニ惣テ毛茸アリ

「カレイヲヘイルラテ」ノ別種

羅別兒モ此種類ヲ論ス甚夕前種ニ相近シト雖此是ヲ撰擇スルニ根ニ佳香ナシ

第一「カレイヲヘイルラテ」マヨル。口左ジホリヤ

即チ圓葉大「カレイヲヘイルラテ」ノ義ナリ

第二 毛様「カレイヲヘイルラテ」

是モ亦圓葉ナリ花毛様ニメ黄色花後風ニ隨テ飛散
ス羅甸ニセブテントリラナリウム。口左ンジホリア。
パポソフロレ。カレイラヘイルラタト名ク

第三 「ヘイフロンゲルコロイト」状ノ「カレイラヘ

イルラタ

葛^{カラ}樂^{シナ}迦^ナ那^ナノ近傍及利聳^{リシ}斯^スノ山ニ産ス其根ヲラニウ

山^カ見^キニ似テ鬚多シ外皮赭褐色稍甘キ香アリ以

テ本條ノ種類トス茎高ク一尺許葉ヲ着ス状五裂ニ

メ葉辺缺刻アリ「ヘイフロンゲルコロイト」^蟻シキナ

ニ似タリ花黄色ニメ光沢ナシ毛様黄莖アリ本條ニ

此スレハ小ナリ羅甸ニ「アルピナ」ペンタヘイルレア。
カレイラヘイルラタト名ク

第四 「ヘロ^{地名}子^子」ノ「カレイラヘイルラタ」

此物本條ノ種類ニ充ツ羅甸ニ「ゴル左サマ」ヨリ又

「ヘロ子」カレイラヘイルラタ。フロレ。サニモレ。フ

リシ子ト名ク是レ羅別兒ノ名ル所ナリ花小ニメ^ト徳

ヲナシ甚タ愛スベシ状殆^レウテルブル^山ル^五ニ^卷三

十章^〇及「サニモラアルピナ」^全三十一^〇日光^ニ似

タリ花内黄色ニメ外赤色中心黄莖アリ一茎ニ多ク

附着ス茎細メ毛ナシ根ハ鬚多メ小茎ヲ叢生ス葉ハ

各種ニ異ナリニニナリ葵様ニニナリデニウニニナリハニニナリ推牛ニニナリガニケルニニナリ第五卷ニ
變豆菜ニニナリノ如ク狀圓メ葉邊深キ缺刻アリテ又
小鋸齒アリ粗糙ニメ地ニ着シ稍繁衍スルニニナリデラニ
ウニニナリハ根ノ如シ此草味酸ニニナリニノ燥ナリ意太里亞ニ生ス
ルハ根ノミ佳香アルニ那ス全草モ香アリ他土ノ者
ハ香氣スクナシ

主治 意太里亞人ハ此草ヲ「ガロハナタ」一名「ガロホラ」
ト名ツク此根乾シ末トナシラウチウクニデン經久損傷ノ口ノ堅ク
ナリタルト又諸惡瘡ヲカキケチキスレセシ蕩滌シ且軟和ス或ハ此自然
汁ニ丹礬ヲ加フ○「カレイ」ヲヘイルラニニナリハ或瘍科ハ

最効アル損傷ヲ治スルノ草トス是レ内部ノ損傷及
ト脇痛ヲ治スルニ奇効アルガ故ナリ○「カレイ」ヲヘ
イルラニニナリノ油ヲ取りニニナリ抹質玉ニニナリ増斯ニニナリノ「コル」ヲサト名ツ
諸損傷ヲ治スルニニナリ「バルサ」ト同シキカ故ナリ○布ニニナリ
カニニナリ居勿斯ニニナリ曰ク「ゲウ」ト云モノアリ「カレイ」ヲヘイル
ラニニナリニ似タル者ニメ根甚細メ佳香アリ是レ胸脇痛
ヲ治スルニニナリノミナラス然亦肺ノ粘稠液ヲ分利ス味モ
赤陸シ○抹質玉ニニナリ増斯ニニナリ曰ク「コル」ヲサハ此花ヲ巴且香
及ト玫瑰ノ油ニ浸シ神經及ト關節痛ヲ和クルニ甚
妙ナリ○或人曰此根ヲ乾シ囊ニニナリニ盛ニニナリテ帯ルニニナリハ其香

氣ニ因テ氣ヲ快爽ニシ精神ヲ益シ腦ヲ強壯ニス時
疫熱及ヒ惡氣ヲ拒ク〇意太里亞人ハ尋常ノ者ヨリ
好テ山^{ベルグ}カレイヲヘイルラタラ用ユ是レ其性効勝レ
芳香最ニ良ナルヲ以テナリ殊ニ熱國ニ生スル者ヲ
以テ良トス

一 茅二十章 「ウシテルグルー」一名「ペイロラ」

和名 亀甲草 一名 茅草

形状 此物根ヨリ五六七葉^{長茎ニ着テ}生シ長茎直立シ葉ハ圓

ミヨリ稍長シ色滑沢ニメ「ベ」テブラーデ^一ニ^{茅二十}

章^〇甜菜^ニ似テ稍小ナリ偶^ニ「バ」ルボ^一ル^{茅二十八}

梨^ノ大サナルモアリ其白粉アルガ如ク堅ク撓^ミ

アル^一甚相似タリ葉間一茎ヲ抽テ直立シ高サ一咫

或ハ一尺許雪白小花ヲ着ス芳香愛スベシ彼是ニ屬

統メ附着ス花中多ノ葉アリ根柔ニメ細ク鬚多シ土

中ニ入ル^一深カラズ

出處 此草好テ山中陰翳ノ地ニ生ス熱尔瑪屋亞別謁
覓爾蘭土彌謁爾蘭土等ノ林中ニアリ或ハ大洋ニ近
キ砂地ノ小山谷中ニ生ス又拂摩按凸斂及ヒ和蘭謝
蘭土ノ小丘砂堤ニアリ

時候 此草六七月ニ花ヲ開ク四時共ニ枯レ大冬夏常
綠色ニノ能ク寒氣ニ堪ユ

異稱 此草今羅甸ニ「バイロラ」又「ピロラ」ト名ク紫謁垣
尔蘭土ニ「ヤンテルグルー」ト云熱尔瑪屋亞ニ「ヤン
テルグ」ト云別謁莫斯ニ「エリス」ト云○列和
那兒禿斂屈悉勿斯ハ「リモニウ」ト云○列和

屋亞ニ「ホルツ」ト云「ゴル」ト云「ワルド」ト云「ゲルト」ト云
フ然レ「リモニウ」ト云ハ古本草家ノ説ニハ山中及ヒ森
林ニハナシ牧地及ヒ水気アル曠野ニ生スコレヲ厄
勅存豆ニ「リモニウ」ト云第二章ト名クコレニ因
テ又「リモニウ」ト名クルナリ○我輩モ上ニ「リモニ
ウ」ト云「ホンツ」ト云一名「セイ」ノ「グロス」ト云「ト」ト云
似タル「ラ」ト云「顯」シテ「ホンツ」ト云第二章ト云ノ條ニ記
セリ

性効 性最レ燥ニメ收斂ニ稍清涼ニス

主治 此葉飲劑トシ服用スルハ失血過多ヲ止メ新

金創ヲ瘡ニ潰瘍ノ嫩衝ヲ拒ク○此草軟膏硬膏トメ
金瘡出血ニ貼ス○酒煎シ及ヒ酒ニテ服スレハ胸中
及体中内部ノ損傷ヲ治ス○腎ノ腫瘍嫩衝スルヲ能
ク蕩滌ス毎ニ「セイムヘイ」五山根「ワール」ヲ加ヘ水
煎シ服メ最近良効アリ

附考

此草野生中ノ最近愛スヘキノ草ナリ花ハ芳香ノイ
ブルームケン「第七卷」ハ「第八卷」ニ似タリ其美ナル一園中
ノ衆花ニ冠タリ
此草「リモ」ニウム「ニ」ニ充ルハ「拂蘭」ニ於テ「リモ」イ子又

「リモ」イ子「或ハ」「ベテサウ」ハゲト名クル故ナリ又一説
ニ羅甸ニ「子ウロイ」デス又「ノモイ」デスト名クル或人ハ
羅甸ニ「ベタ」シリス「ステリス」又「ネン」ネンナ豆ムラ
ルレト名ク

第一 軟葉「ネン」テルグルー

葛祿留斯吉留儼烏斯ノ倫スル所ニメ荷斯夫祿以吉
沙雅「サハ」設ノ山中ニテコレヲ見タリ彼人ニ是ヲ「ベイ」ロラ
セキニダテ子リラルト名ク六七八月ニ花アリ莖肥
大ニメ「厚」葉全ク薄ク先キ尖リ葉邊多ノ細鋸葉アリ
リテ「暗」黒綠色「梨」葉ニ似タリ花ハ尋常ノモノト同シ然

花後五稜ノ小珠ヲ結ヒ尋常ノ者
ト同ク挺出セル^{アリ}刺アリ根ハ尋常ノ者ノ如ク^行繁茂ス
或人ハコレヲ「アムブロシア」ニ充タレ^レ彼ノ種類ニ
アテス

第二 「ストロイク」マクキクウニテルグルーシ

是モ亦吉留徹烏斯ノ倫スル所ニメ「ペイロラ」ヲ以テ
カンスト名ク此物莖短ニメ年コトニ生ス年ニヨリ
翼年ニ至リ緑色ニメ白粉ヲ帯タル如ニメ枯レス高
ク直立シテ自ラ下垂ス又莖下ニ入ル^レハ土ニ附テ
鬚根ヲ生ス葉ハ各小枝ノ本節ニ附ラ二三四葉簇リ

生ス肥厚ニメ面暗緑色光沢アリ其状大サハ「ラウレ
ラ」^{第十}「^{十一}」^{第二章} 葉ニ同シケレ^レ葉邊ニ缺刻アリ味甚
燥ニメ苦ヲ帯フル^レ「^十」^ノ「^十」ノ諸種ニ
同シ花ハ莖頭ニ三四五相連綴ス尋常ノ「^十」^ノ「^十」^ノ「^十」^ノ
ル^レ「^十」ノ如ニメ稍大色紫白花^ノ五稜ノ小珠子ヲ
結フ中ニ小^ノ「^十」^ノ「^十」^ノノ如キ子充ツ冬ニ至レ
ハ小枝ニ着テ自ラ乾枯ス莖ヨリ多ノ小根ヲ生シ鬚
根ヲ以テ地中ニ着ス毎年四月新芽ヲ生ス○荷斯天
祿以言及ヒ近隣ノ諸國ニ「^十」^ノ「^十」^ノ「^十」^ノ種類中
ニ雜生ス

第三 「蕞小」字ニテルグルーシ

吉留識鳥斯コレヲ「バイロラ名ルタミエ」ト名ツク
此亦地ニ附テ細莖ヲ生シ三四葉簇生ス状チ全ク小
ニメ圓ク辺ニ刻缺アリ葉間一莖ヲ抽テ滑沃柔軟ナ
リ莖頭大ナル花アリ五瓣ニメ尖銳ナリ或人ハ此草
ノ花ヲ「ガラメ」ニバルトセト名ク反彎セル十鬚葉ヲ
花中ニ具ス隆起セル小頭アリテ尖リタル一小刺ア
リテ五星ヲ出ス小珠ハ長スレハ五稜ニ人小子仁元
ツメ互空シハ木ニ生スル所ト状ツ同フス全草共に
味甚苦シ凡テ此草ノ類ハ圓圓ニ生スルツ好ニズ

主治

人多ク此草ヲ以テ燥ノ第三度寒ノ第二度トス
○此葉一味或ハ他ノ金瘡劑シトコロイドヲ加ヘ酒ニテ煎服スレ
ハ但ニ内部ノ損傷ヲ治スルノミナラス又能ク外部
損傷ヲ治シ兼テ諸漏瘡及ヒ諸惡瘡又効アリ○火傷
ニ生葉ヲ搗キ傳テ甚良ナリ或ハ軟硬ノ膏中ニ和メ
用ルモ亦佳ナリ○此子一匕酒ニテ服メ能ク諸泄瀉
赤痢ヲ治シ吐血下血及ヒ婦人ノ崩漏ヲ止メ甚功ア
リ○此物及ヒ此類ノ諸草ハ諸損傷ノ新劑ナリ故ニ
内部ノ諸損傷ニ安テ神効アリ其方「字ニテルグルー
シ」龜甲「アルシミルレ」次二十「バトニ」第二卷「アル
シ」四章「二十」二十章

ドベシーンコロイド 第二章 蛇毒類 ヲールドステール
第三章 卷二十一 ガレイヲヘイルラテ 前章 〇 トルメ
〇スギナ シヤルラ 第四章 卷三十三 ポムピ子ルラ 全二十一 モイ
〇 センラーレン 第三章 卷三十三 デンル 〇 第二章 卷二十一 サウ
〇 ワールウラ 〇 第五章 卷三十三 根 〇 第十一章 卷二十一 各等
〇 分水酒各半ノ内ニ煎シ能温ノ三十二 莪 朝夕コレヲ
 飲服ス 殆死ニ瀕スルモノヲ挽回ス 甚功アリ 〇 此物
 蒸露ヲ以テ潰瘍外部損傷ヲ洗滌ス 又自然汁ヲ用モ
 亦佳ナリ

撰用 熱尔瑪 左亞 〇 樂設尔 悉斯天 〇 奇尔 悉悉 迦尔 〇 外

科 諸損傷劑ヲ作ルカ為ニ意太里亞ノ側亞 〇 卑斯山
 ノ者ヲ採用ス 而メコレヲ以テ諸損傷飲劑ノ第一ト
 ス 然レ熱尔瑪 左亞 及ヒ 業揭 培尔 蘭土ノ者ハ 性劣レ
 リトス 然レ若シ 迄キニアハハコレヲ用エ

第二十一章 「カデルストーン」一名「ラヒラグロス」

一名「スペールコロイト」

和名ハナヤスリ

形状 此物ハ異状ノ草ニメ絶テ一葉ノ外ハ生スル

ナシ葉状潤メ狭長殆ト「ベルシカリ」第二十章墨記草

ノ如ニメ小滑沢ニメ肥厚サレヨリ細茎ヲ抽テ小角

ヲ結フ頗ル蝮蛇ノ舌ニ似タリ根ハ鬚ナリサセルアキラク

出處 曠野ノ水気アル処ニ生ス本國及ヒ熱爾瑪左亞

意太里亞回処々ニテコレヲ見タリ

時候 五月新芽ヲ生シ六月ニ至テ尚綠色小角ヲ結テ

後枯凋ス来年後生ス

異稱 此草羅甸ニ「ラヒラグロス」ト云フ通メ「ラン

セアキリス」ト云フ是レ「我ラン」スヘーレンス君スヘー

ルコロイト草トノ義ナリ或ハ「シクレラ」又「アルゲン」

ト云又一種「アルゲン」ト云モノアリコレハ後

水草部第二十章「ガンセリ」ニ載ス意太里亞ニ「ヘルバセ

ンサコスタ」ト名ク熱爾瑪左亞ニ「ナール」ト云

ト云其後我輩厄勒荷亞ニ「ラヒラグロス」ト云

羅甸ニ「リンギアセルペン」ト云拂郎奈ニ「ランギ

エデセルペン」ト云諸厄利亞ニ「カデルストーン」ト云

業謁堙尔蘭土モ亦同シ又「スペールコロイト」云フ
別謁莫斯ニハ「ハギーヤセイクト」云○布立尼勿斯ノ
書第二十四卷十九章ニ「リンギアヘルバト」云モノア
リ泉及ヒ流水ノ辺ニ生ス又全書第二十五卷十一章
ニ「リンギラカト」云草アリコレヲ諸本草家我輩ノ「ス
ペールコロイト」ト一物ナリトス然レ彼書中ニ圖ナ
キヲ以テ未詳トス

性効 性寒ニシテ而モ中等ナリ寒ヨリハ燥ノ性勝レリ
第二度ニ至ル

主治 薄布質斯達薩兒述斯曰ク此物新ナル損傷ヲ治

スルニ甚ク奇効アリ○「スペールコロイト」油ノ法
此物ノ葉膽ハ樹油ニ浸シ太陽煎トナスコレヲ用テ
新諸損傷ヲ治スルノミナラス皮膚潰爛経久不治ノ
者ト速ニ滌蕩シテ治スルノ妙ナリ○薩兒述斯又曰
ク此物末トシ日々服スル中ハ又能ク諸損傷ヲ治ス
○布立尼勿斯曰ク此草根ヲ「リンギア」或ハ「リンギラ
カト」名ク是ヲ燒キ細末トシ黑豕腿ノ毛ノ生セサル
処ヲ加ヘ和シ頭髪ノ脫落ヲ止ム註此草「スペールコ
ロイト」ニ「羌ト」雖モ未詳

附考

此草古人モコレヲ知ルト雖此ヲ審ニスル人ナシ
當時ニ至テ六名ヲ設ル_ト甚多シ何則_ト松即_ト蔡_トニヘル
ベサン_トス_トフ_トウ_トス_ト五_トレ_トト名_トク意_ト太_ト里_ト亞_トニヘル_トハ_トセ_トン
サ_トコ_トス_トト_トラ_トト_ト名_トク是_トレ_ト此_ト草_ト葉_ト惣_トテ_ト一_ト指_トノ_ト長_トニ_トシ_トテ
條_ト理_トナ_トク_ト根_トヨ_トリ_ト出_トツ_ト其_ト他_トハ_トワ_トリ_トテ_トル_ト空_ト一_トギ_トフ_トレ_ト一
第_トニ_ト針_ト卷_ト三_ト十_ト葉_トニ_ト甚_ト能_ト似_トタル_トガ_ト故_トナ_トリ_ト或_トハ_ト葉_ト錫_ト瑄_ト
章_ト○_ト水_ト澤_ト澗_トニ_ト葉_トニ_ト甚_ト能_ト似_トタル_トガ_ト故_トナ_トリ_ト或_トハ_ト葉_ト錫_ト瑄_ト
名_ト蘭_ト土_トニ_トナ_トレ_トル_トト_トン_トゲ_トレ_トト_ト云_ト羅_ト甸_トニ_ト正_トノ_トヘ_トイ_トル
五_トト_ト云_ト是_トレ_ト一_ト葉_トナル_トカ_ト故_トナ_トリ_ト或_トハ_トコ_トロ_トイ
ト_ト一_ト名_ト「_ト五_トナ_トナ_トリ_トヤ_ト」_ト云_トフ
此_ト草_トノ_トト_トン_トゲ_トレ_ト花_トノ_トアル_ト処_トヲ_ト云_トフ_ト昔_ト色_トニ_トメ_ト尖_トリ_ト硬_トシ

鋸齒ノ如キ刺_トアリ_ト羅_ト別_ト兒_トノ_ト説_トニ_ト或_トハ_ト重_トリ_トタル_ト者_トヲ
ヲ_トト_ト其_ト子_トヲ_トナ_トス_ト処_ト細_ト粉_トアリ_ト熟_トス_トル_ト片_トハ_ト陶_トテ_トト_トン_トゲ_ト
ノ_ト先_トヨ_トリ_ト落_トツ_ト此_ト全_ト草_ト味_ト甘_トシ_トテ_ト稍_ト糊_ト刮_トノ_ト如_トシ_ト根_ト味_ト苦
微_ト辛_ト法_ト列_トカ_ト勿_ト思_ト郭_ト兒_ト述_ト斯_トノ_ト説_トニ_トハ_ト山_ト地_トニ_ト生_トス_トル_トヨ
シ_ト云_トヘ_トリ

○「_トス_トペ_トー_トン_トコ_トロ_トイ_トド_ト」_ト云_トベル_トト_トン_トゲ_トレ_トノ_ト者_ト。
此_トハ_ト一_トノ_ト「_トミ_トス_トハ_トル_ト」_トナ_トリ_ト故_トニ_ト羅_ト別_ト兒_トハ_トワ_トレ_トラ_トグ_トロ_トス
五_トム_トア_トボ_トル_トテ_トユ_ト一_トム_トト_ト名_トク_ト或_トハ_トス_トベル_トノ_ト異_ト状_トナル
モノ_ト三_ト四_ト及_ト七_ト六_トツ_ト重_トリ_トタル_ト者_トヲ_ト諸_ト厄_ト利_ト亞_トニ_トテ_ト見_トタ
リ_ト他_ト土_トニ_ト於_トテ_トハ_ト有_トル_ト処_トナ_トシ_ト前_ト條_トト_トハ_ト別_トナ_トリ

此草園中ニ栽ルハ樹下陰地ニ宜シ能ク地性ニカナ
ヘハ毎年新芽ヲ生ス

主治 或人ハ此草ヲ全ク燥ノ第三度ニ至ルトス然レ

独度涅烏斯ハ燥ノ第一度ノ始トス○或人ハ此草ヲ

「ウ」ニテ「ル」ゴロヘニ前條ニト同功ナリトメ勝レタル

損傷割トス故ニ諸損傷ニ内服外用共ニ功アリト云

ヘリ○此草水煎シ服メ諸熱及ヒ肝ノ燃熱内外ノ諸

熱ニ甚アリ○豕股ニ和メ「ウ」ルトヒ「ル」火傷及ヒ諸

熱潰瘍膿潰瘡ヲ治スルニ甚功アリ○此草ノ細末ヲ

「ヤ」ルトステ「ル」ト「接續草」ノ水ヲ以テ用ユレハ

高墜打撲ニ由テ晒及ヒ諸内部ノ損傷スルヲ治ス又

吐血及ヒ「アル」ゾケブ「ラー」キ「グ」ニ甚良ナリ○此

草細末トシ「エ」イ「ケン」第二十九卷一章葉ノ水ヲ以テ

服スレハ婦人「ラン」崩漏ナリ「テ」ニ甚功アリ

○此草ノ末十六錢酒及ヒ醋ヲ以テ用レハ疫熱ニ甚

功アリ○此草ノ生葉糖ノ損傷ヲ治スルニ甚速ナリ

○此草ノ油ニ「デン」子ボ「ム」第三十卷十三油少許ヲ

加ヘ新損傷「コロ」ヘン及ヒ潰瘍諸惡瘡ニ奇功アリ

○此草猶煎メ目ヲ洗ヘハ「ロー」ペン「デ」又「ダ」ラー「子」

眼ヲ速ニ療シ再ヒ恢復セシム此生葉「ヒ」ン「子」ニス

フルードスウキニ

ゲレケルトハイト

崩漏ナリ

裂キ此

第三十卷十三

「ノール」^和詳ニ和シ損傷ニ貼スレハ能ク燃熱ヲ解ス
又豚股ヲ加ヘ温テ潰瘍ニ貼ス^{カシ}癌及「ヒール」ヲ拒ク
「ワデル」ストーンケハ弁鍊家甚好テ

取。

9

P. 186—202

44

